

斐伊川水系中流支川域河川整備計画

【第1回変更】

付属資料

(平成27年度アンケート結果)

令和4年3月

島根県

1. 住民アンケート

河川法に基づく「斐伊川水系中流支川域河川整備計画」の策定にあたり、流域住民の意見を反映させるため、アンケートを実施した。

1.1 アンケート概要

《アンケート期間》

平成 27 年 12 月 22 日～平成 28 年 1 月 12 日

《配布対象》

- ・雲南市内の自治会加入全世帯（自治会加入率：87.9%）
- ・雲南市内の中学校（全 7 校）、出雲市内および奥出雲町内の小学校（各 1 校）

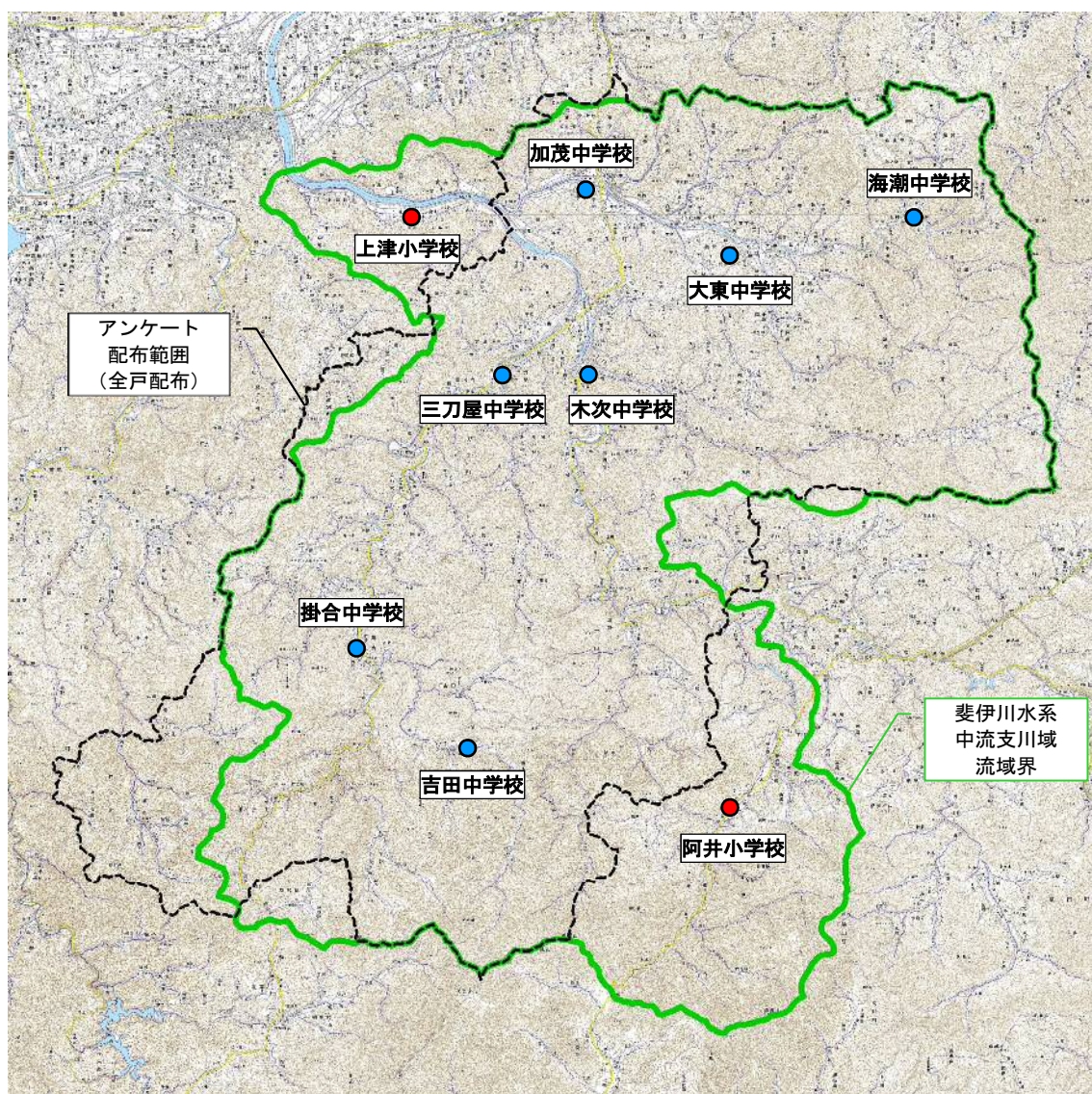


図-1.1 アンケート実施範囲

《配布数・回収率》

- ・自治会配布物として各世帯に1部ずつ配布、返信用封筒により回収
- ・中学校は雲南市教育委員会を通して配布、回収（3年生を対象に実施）
- ・小学校は各学校に直接依頼、回収（5,6年生を対象に実施）

一般

配布数（世帯）	回収枚数（枚）	回収率
12,142	4,593	37.8%

小中学校

学校名	回収枚数（枚）	回収率
大東中学校	87	
海潮中学校	16	
加茂中学校	52	
木次中学校	70	
三刀屋中学校	57	
掛合中学校	23	
吉田中学校	11	
上津小学校	18	
阿井小学校	17	
合 計	351	100%

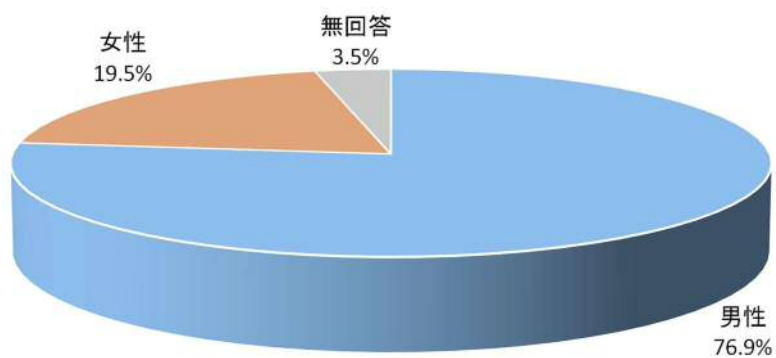
合計

区 分	配布数（枚）	回収枚数（枚）	回収率
一 般	12,142	4,593	
小中学校	351	351	
合 計	12,493	4,944	39.6%

1.2 アンケート集計結果

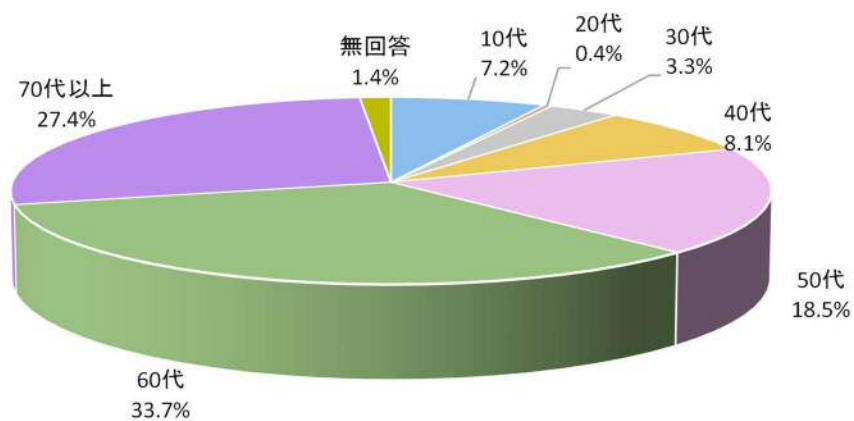
Q1-1 性別

性別	回答数(人)
男性	3,804
女性	966
無回答	174
合計	4,944



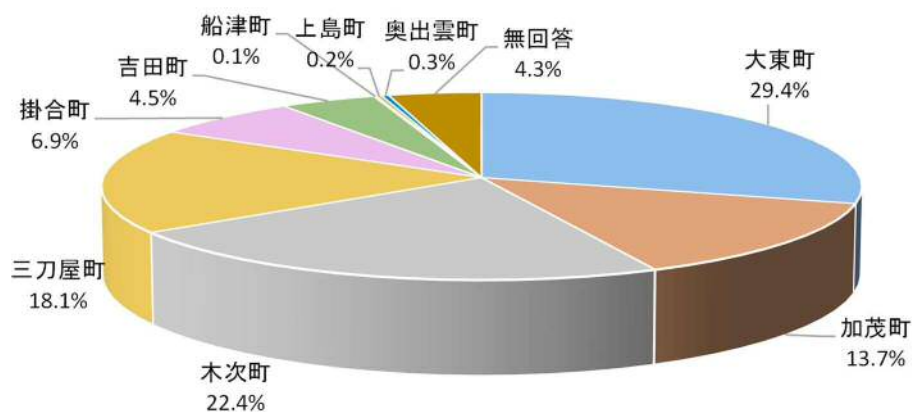
Q1-2 年齢

年齢	回答数(人)
10代	355
20代	19
30代	165
40代	400
50代	916
60代	1,665
70代以上	1,353
無回答	71
合計	4,944



Q1-3 住まい

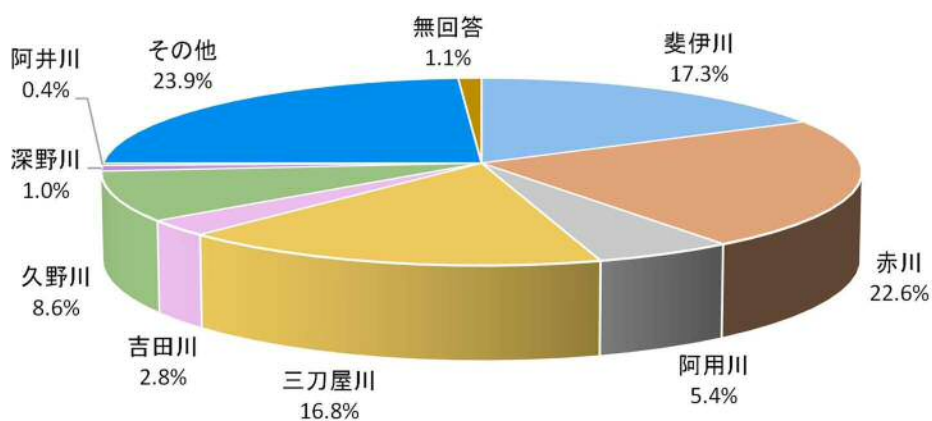
町名	回答数(人)	町名	回答数(人)
雲南市大東町	1,454	雲南市吉田町	222
雲南市加茂町	677	出雲市船津町	6
雲南市木次町	1,107	出雲市上島町	12
雲南市三刀屋町	895	仁多郡奥出雲町	17
雲南市掛合町	342	無回答	212
合 計		4,944	



Q2 「ご自宅の近くを流れている川」、「普段の生活で関わりのある川」（以降、「身近な川」と記載）を選んでください

河川名	回答数(人)	河川名	回答数(人)
斐伊川	967	久野川	481
赤川	1,262	深野川	54
阿用川	303	阿井川	22
三刀屋川	939	その他	1,336
吉田川	156	無回答	60
合 計		5,580	

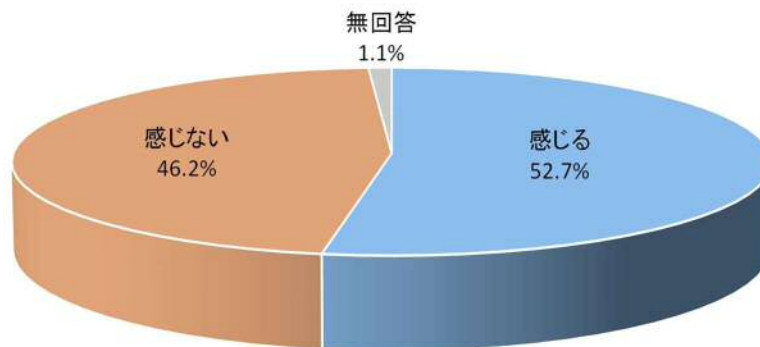
※複数回答あり



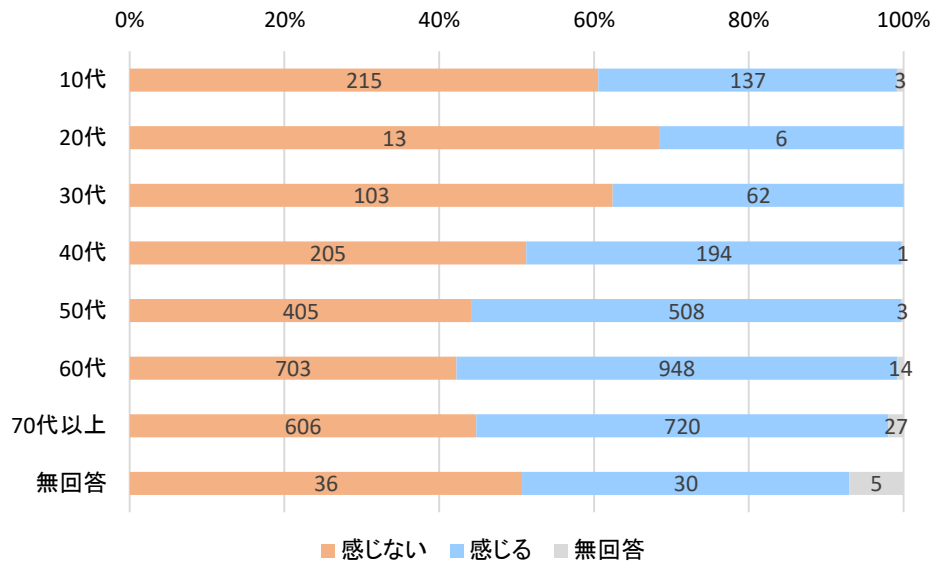
● 「治水」

Q3 身近な川で、大雨の時に危険と感じたことはありますか

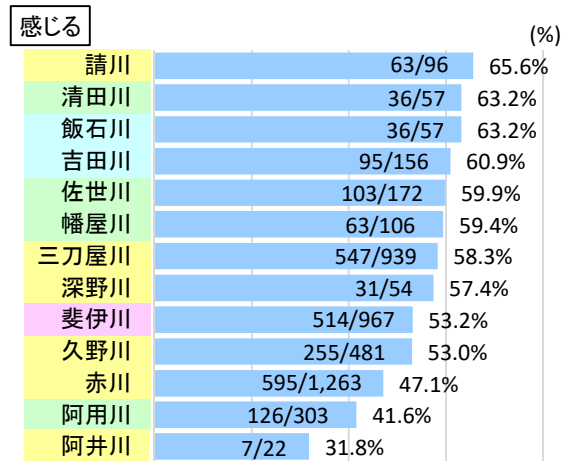
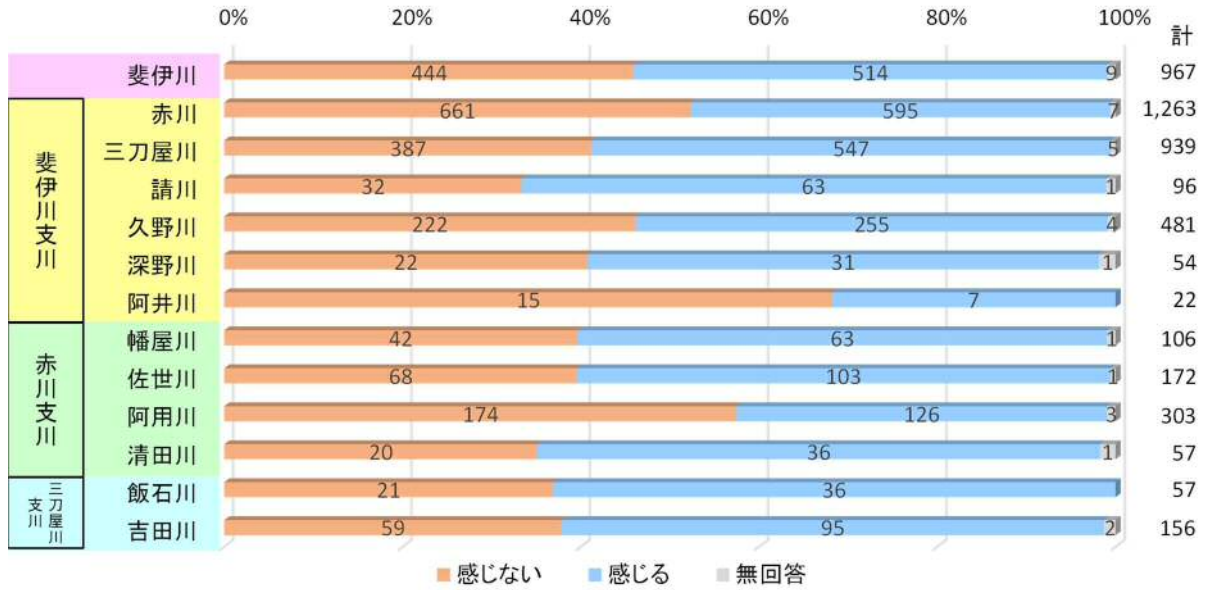
選択肢	回答数（人）
感じる	2,605
感じない	2,286
無回答	53
合計	4,944



【年齢別】



【河川別】



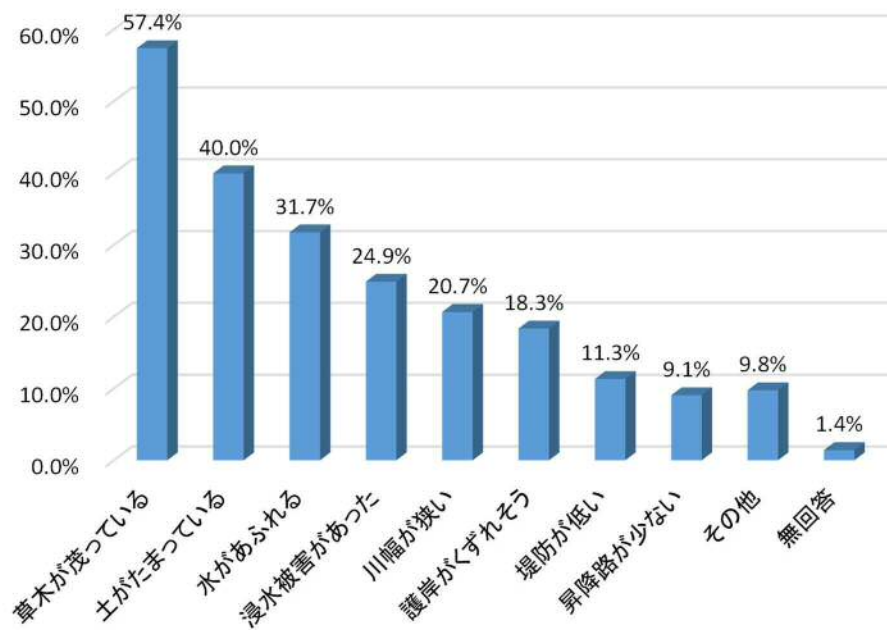
※母数は河川別の回答数

【回答の傾向】

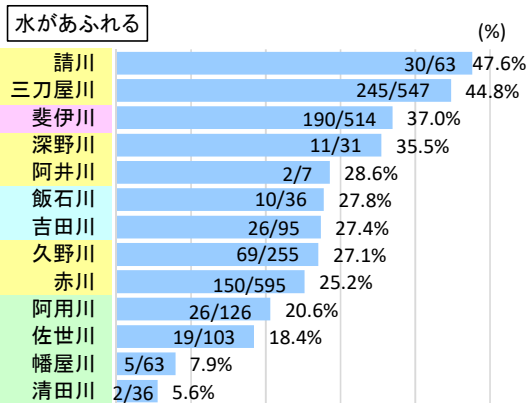
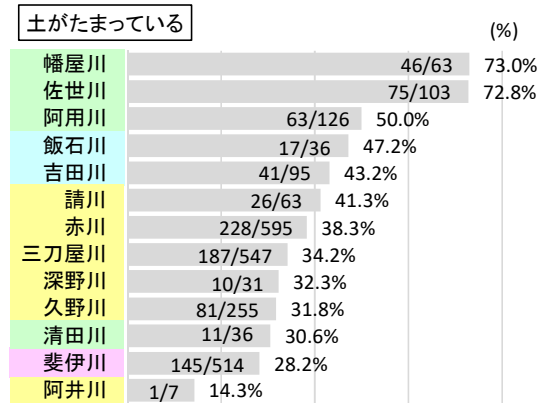
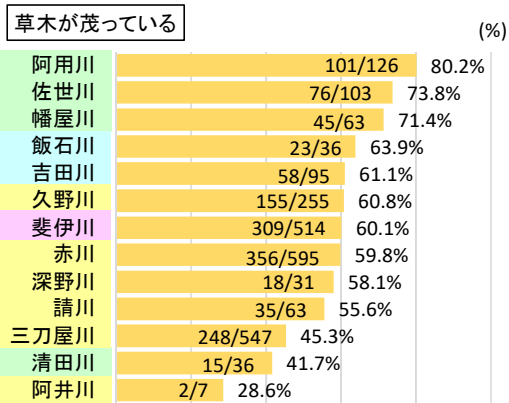
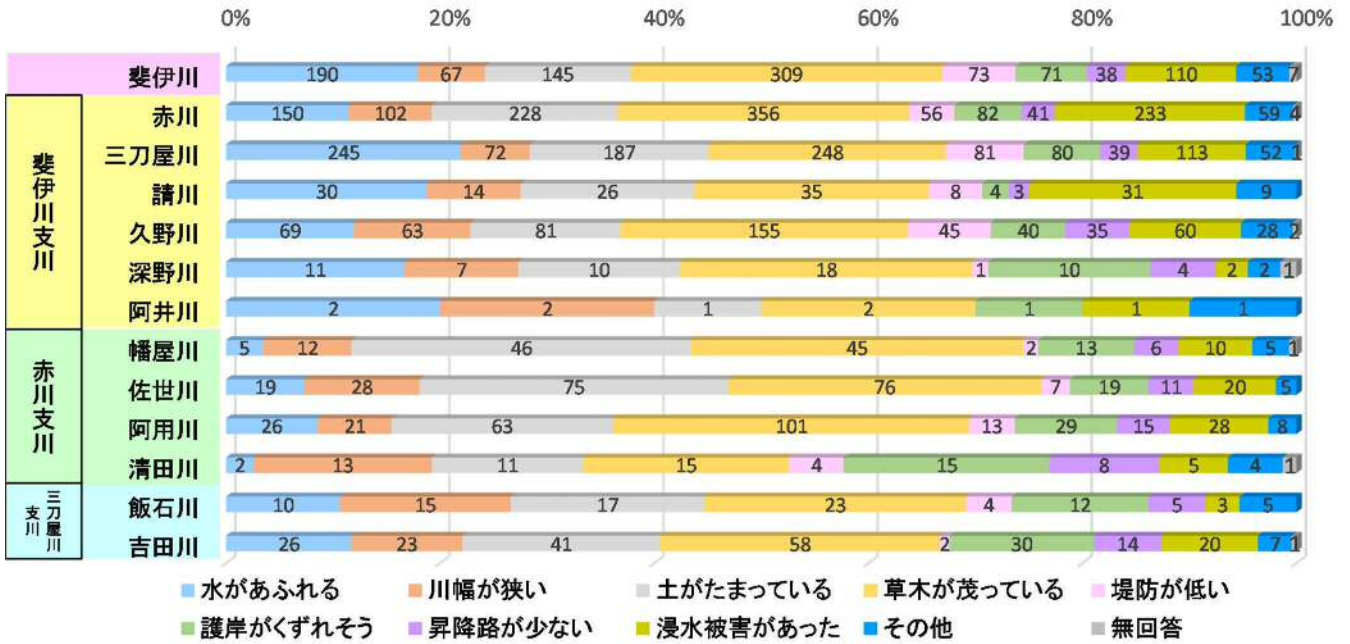
- ・全体では危険を「感じる」と回答する割合がやや多い。
- ・年齢別では、50代以上において危険を「感じる」と回答する割合が若年層より大きく、50%を超える結果となっている。
- ・危険を「感じる」割合が5割を超える川は、10河川ある。

Q4 Q3で「感じる」を選んだ理由は次のうちどれですか【複数回答可】

選択肢	回答数（人）
草木が茂っている	1,495
土がたまっている	1,041
水があふれる	827
過去に浸水被害があった	648
川幅が狭い	538
護岸がくずれそう	478
堤防が低い	295
昇降路が少ない	236
その他	254
無回答	37



【河川別】



※母数は危険と感じると回答した河川別の回答数

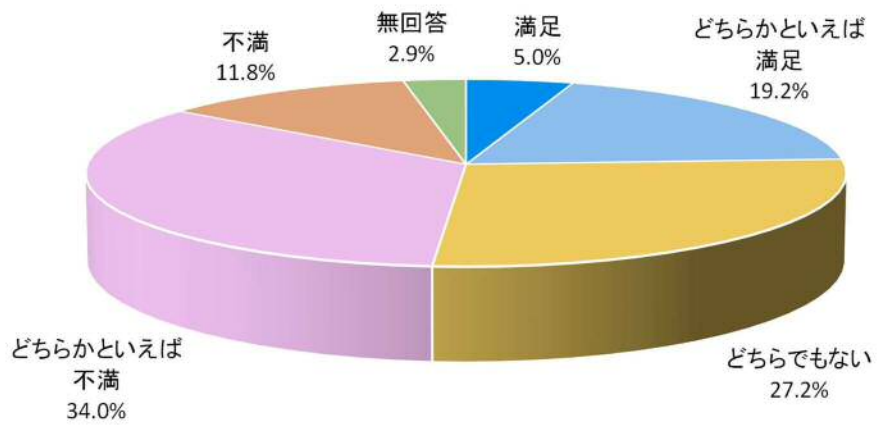
【回答の傾向】

- 大雨時に危険と感じる理由として、「草木が茂っている」が5割以上を占め、次いで「土がたまっている」が4割となっており、「川の維持管理」に関する理由が多い。
- また「水があふれる」の回答が3割以上であり、治水に関する理由も多い。

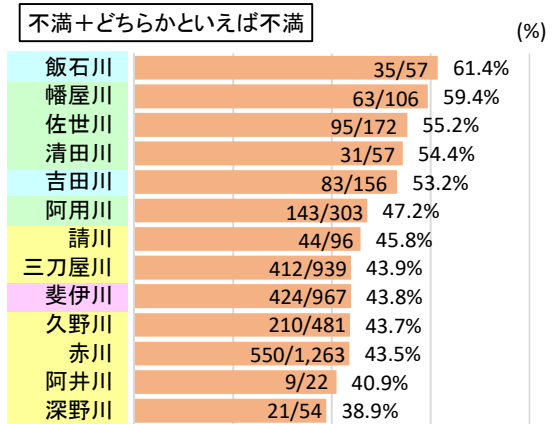
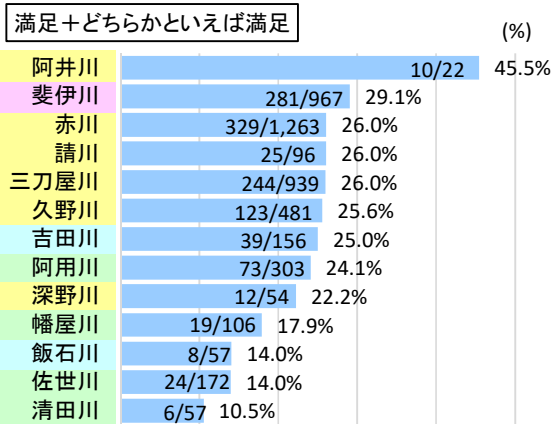
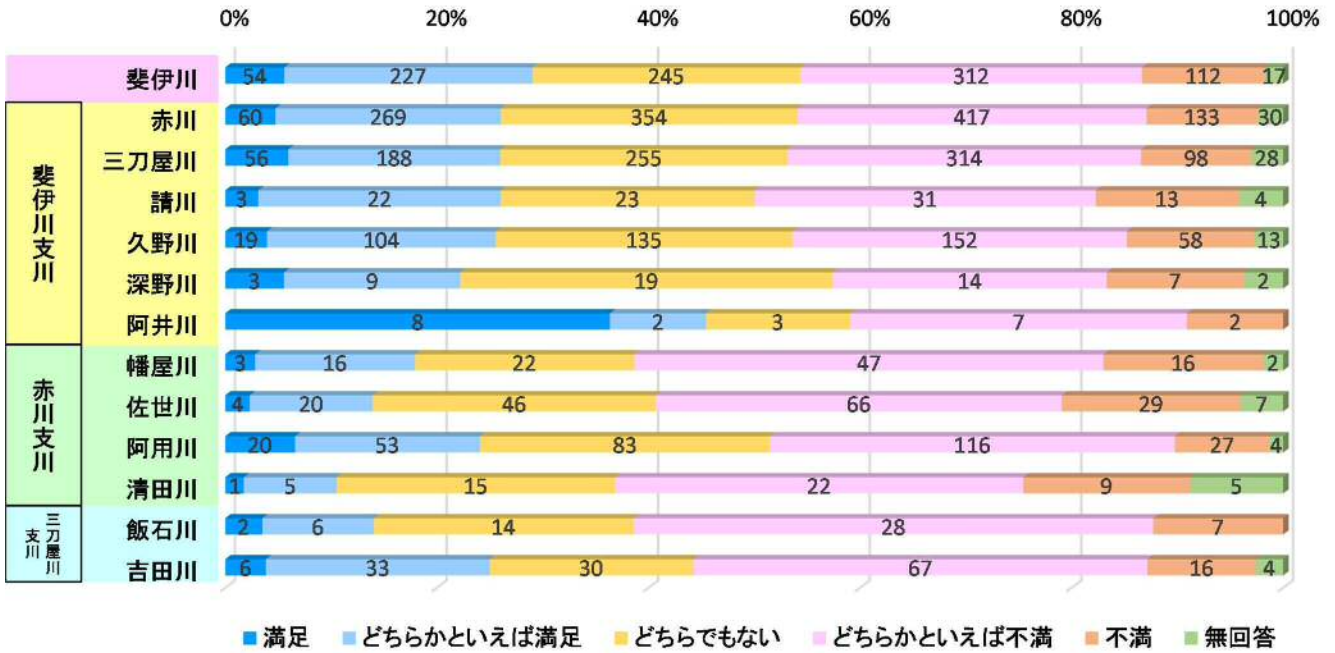
●「河川環境」

Q5 身近な川の環境に満足していますか

選択肢	回答数 (人)
満足	245
どちらかといえば満足	947
どちらでもない	1,344
どちらかといえば不満	1,682
不満	583
無回答	143



【河川別】



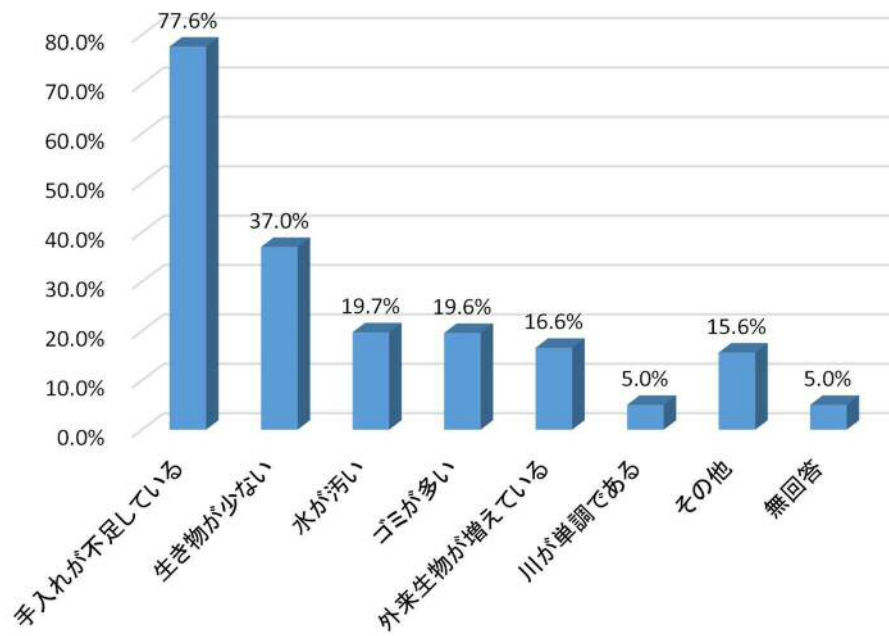
※母数は河川別の回答数

【回答の傾向】

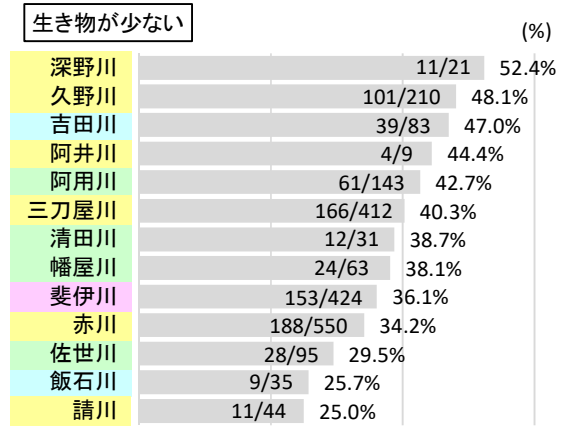
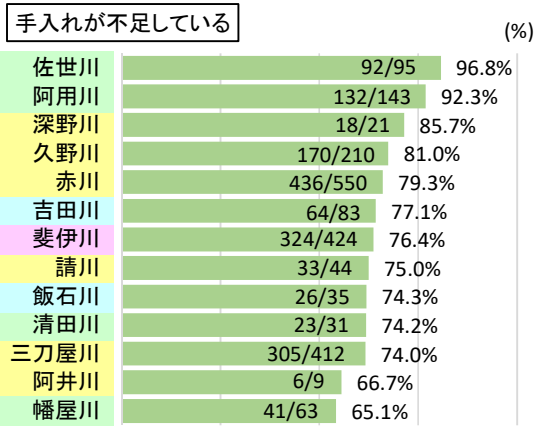
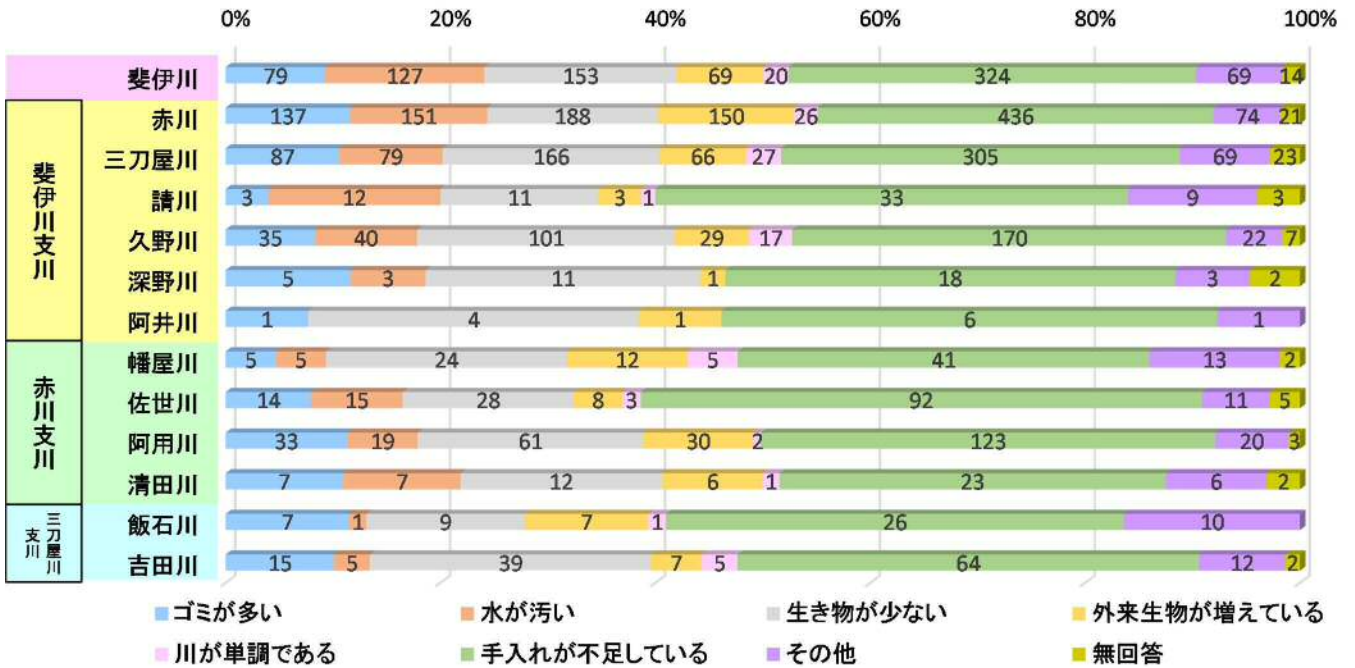
- ・現状の河川に対して、満足感より不満感を持っている割合が多い。

Q6 Q5で「どちらかといえば不満」、「不満」と回答された理由は次のうちどれですか
【複数回答可】

選択肢	回答数（人）
手入れが不足している	1,758
生き物が少ない	839
水が汚い	447
ゴミが多い	444
外来生物が増えている	376
川が単調である	114
その他	354
無回答	114



【河川別】



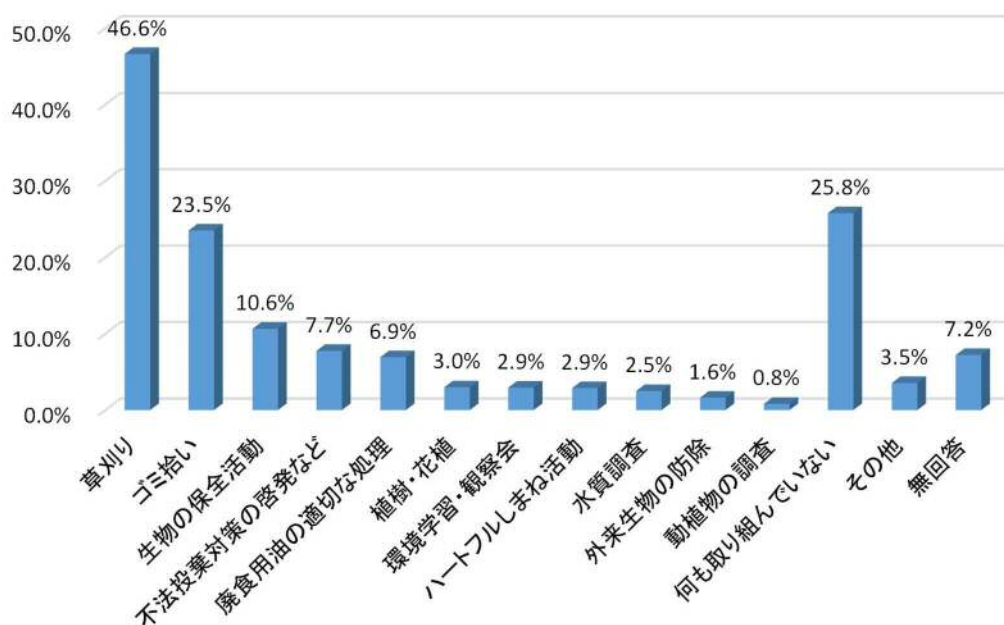
※母数は「不満」、「どちらかといえば不満」と回答した河川別の回答数

【回答の傾向】

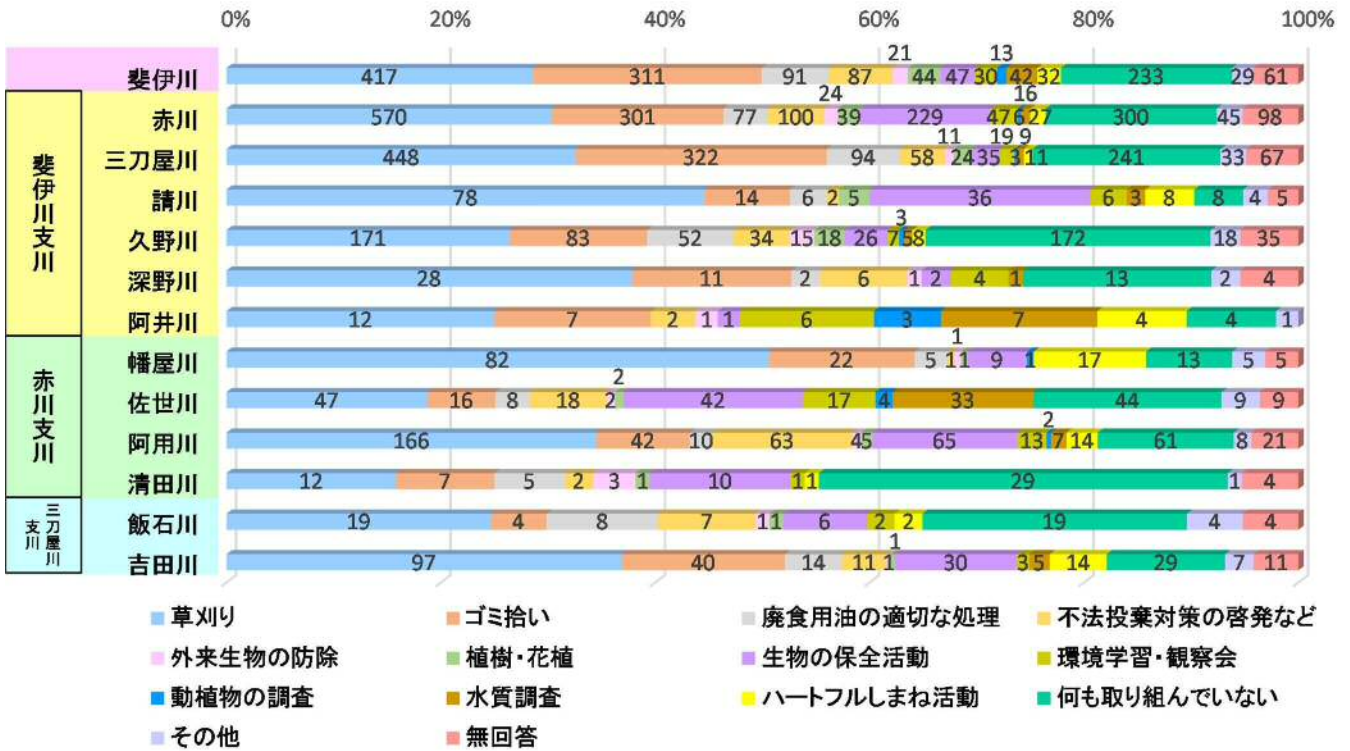
- ・どの河川についても「手入れが不足している」が最も多い回答となっている。
- ・次いで「生き物が少ない」となっている。

Q7 身近な川で「現在取り組まれていること」は次のうちどれですか【複数回答可】

選択肢	回答数（人）
草刈り	2,304
ゴミ拾い	1,162
生物の保全活動	526
不法投棄対策の啓発など	383
廃食用油の適切な処理	342
植樹・花植	147
環境学習・観察会	145
ハートフルしまね活動	142
水質調査	123
外来生物の防除	80
動植物の調査	40
何も取り組んでいない	1,274
その他	175
無回答	356



【河川別】



河川	母数	割合 (%)
請川	78/96	81.3%
幡屋川	82/106	77.4%
吉田川	97/156	62.2%
阿用川	166/303	54.8%
阿井川	12/22	54.5%
深野川	28/54	51.9%
三刀屋川	448/939	47.7%
赤川	570/1,263	45.1%
斐伊川	417/967	43.1%
久野川	171/481	35.6%
飯石川	19/57	33.3%
佐世川	47/172	27.3%
清田川	12/57	21.1%

河川	母数	割合 (%)
三刀屋川	322/939	34.3%
斐伊川	311/967	32.2%
阿井川	7/22	31.8%
吉田川	40/156	25.6%
赤川	301/1,263	23.8%
幡屋川	22/106	20.8%
深野川	11/54	20.4%
久野川	83/481	17.3%
請川	14/96	14.6%
阿用川	42/303	13.9%
清田川	7/57	12.3%
佐世川	16/172	9.3%
飯石川	4/57	7.0%

※母数は河川別の回答数

【回答の傾向】

・概ねの河川で「草刈り」や「ゴミ拾い」の割合が高い。

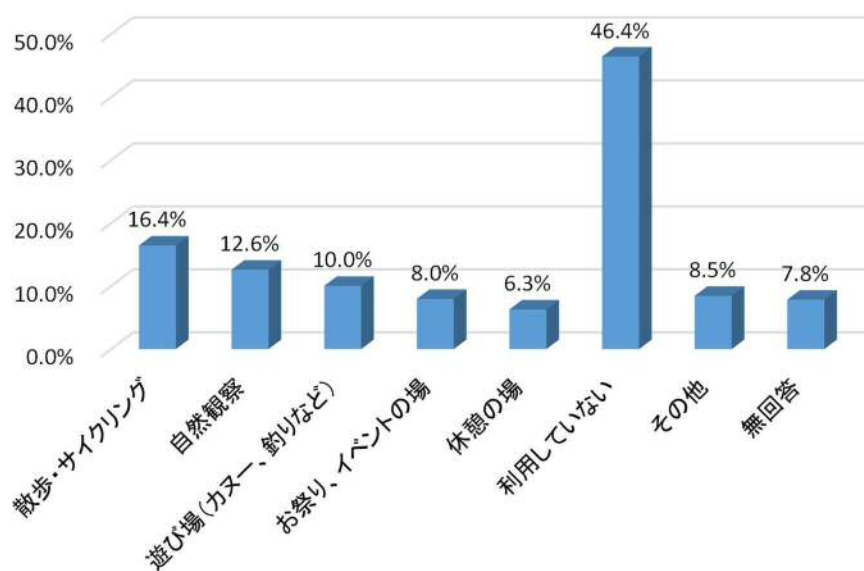
Q8 身近な川で「今後、新たに取り組みたいと思うこと」があればお聞かせください

- ・草刈り、伐木やゴミ拾い
- ・釣り場、遊び場作り、魚のつかみ取り等の川遊び
- ・ホタル、魚などの生物の保全活動
- ・外来生物の捕獲、駆除
- ・不法投棄対策の啓発活動 等

● 「利用」

Q9 身近な川をどのように利用していますか

選択肢	回答数 (人)
散歩・サイクリング	813
自然観察	623
遊び場 (カヌー、釣りなど)	496
お祭り、イベントの場	394
休憩の場	311
利用していない	2,296
その他	418
無回答	388



散歩・サイクリング		(%)
斐伊川	280/967	29.0%
久野川	114/481	23.7%
三刀屋川	194/939	20.7%
赤川	260/1,263	20.6%
阿用川	49/303	16.2%
清田川	7/57	12.3%
請川	10/96	10.4%
幡屋川	10/106	9.4%
佐世川	4.7%	8/172
阿井川	4.5%	1/22
深野川	3.7%	2/54
飯石川	3.5%	2/57
吉田川	3.2%	5/156

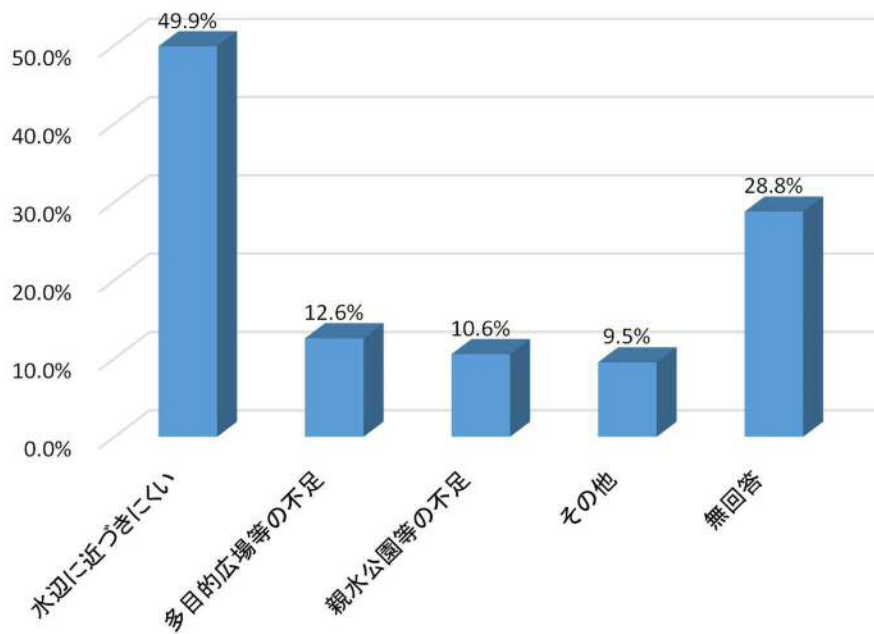
※母数は河川別の回答数

【回答の傾向】

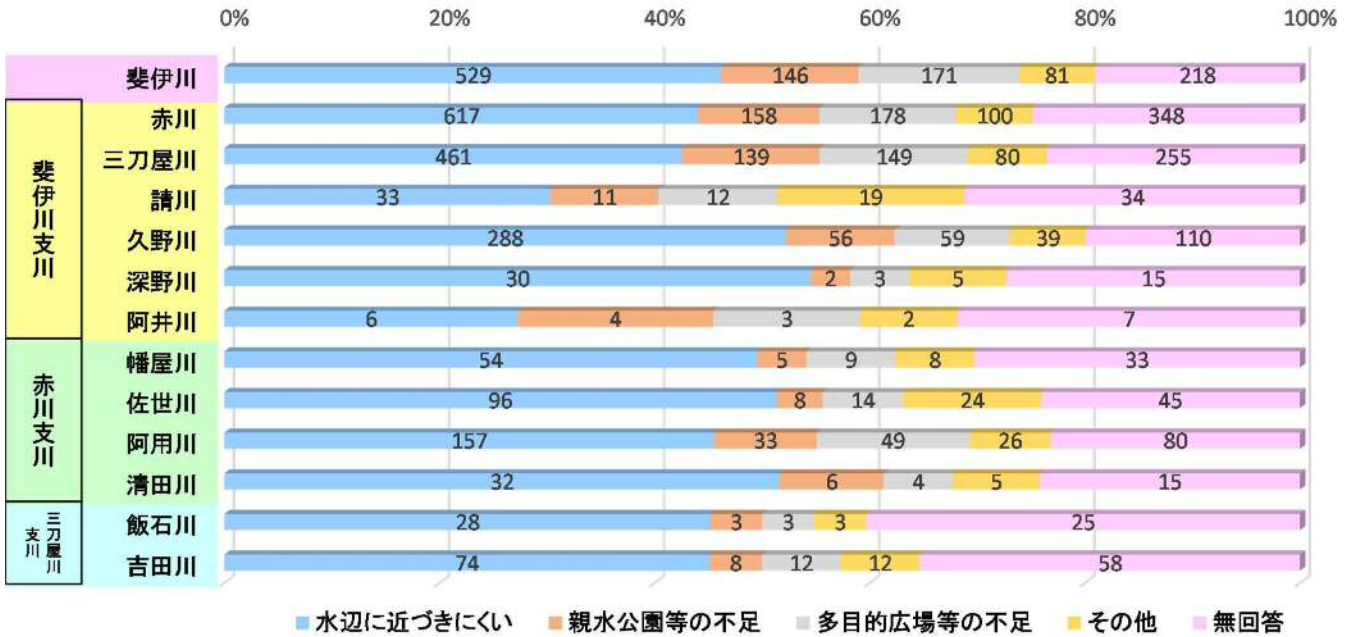
・「利用していない」と回答する人が約半数を占める。

Q10 身近な川の利用で、不満な点は次のうちどれですか【複数回答可】

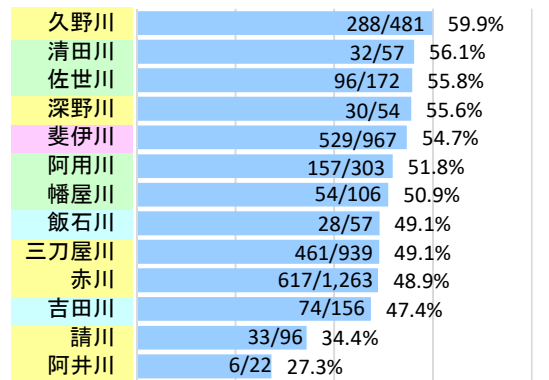
選択肢	回答数（人）
水辺に近づきにくい	2,466
多目的広場等の不足	622
親水公園等の不足	522
その他	470
無回答	1,422



【河川別】



水辺に近づきにくい



※母数は河川別の回答数

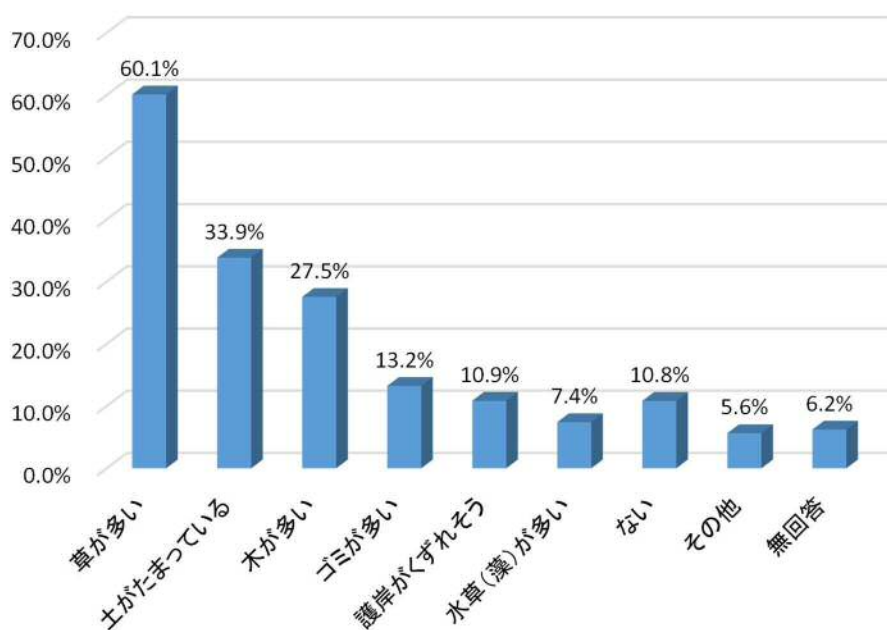
【回答の傾向】

・概ねの河川では「水辺に近づきにくい」が半数近くとなっている。

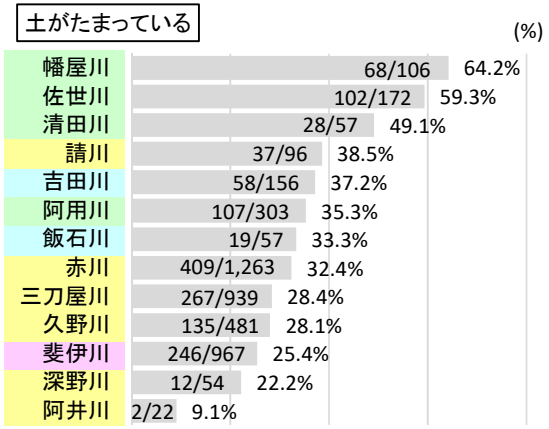
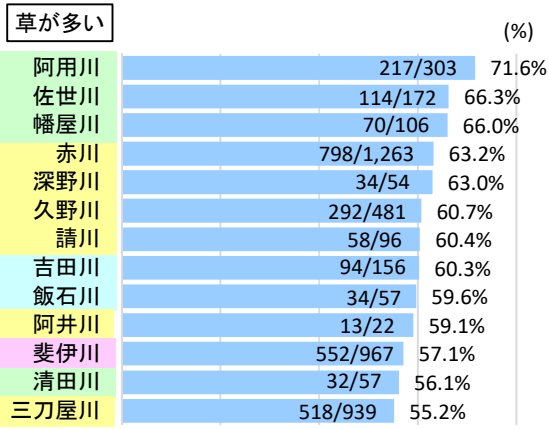
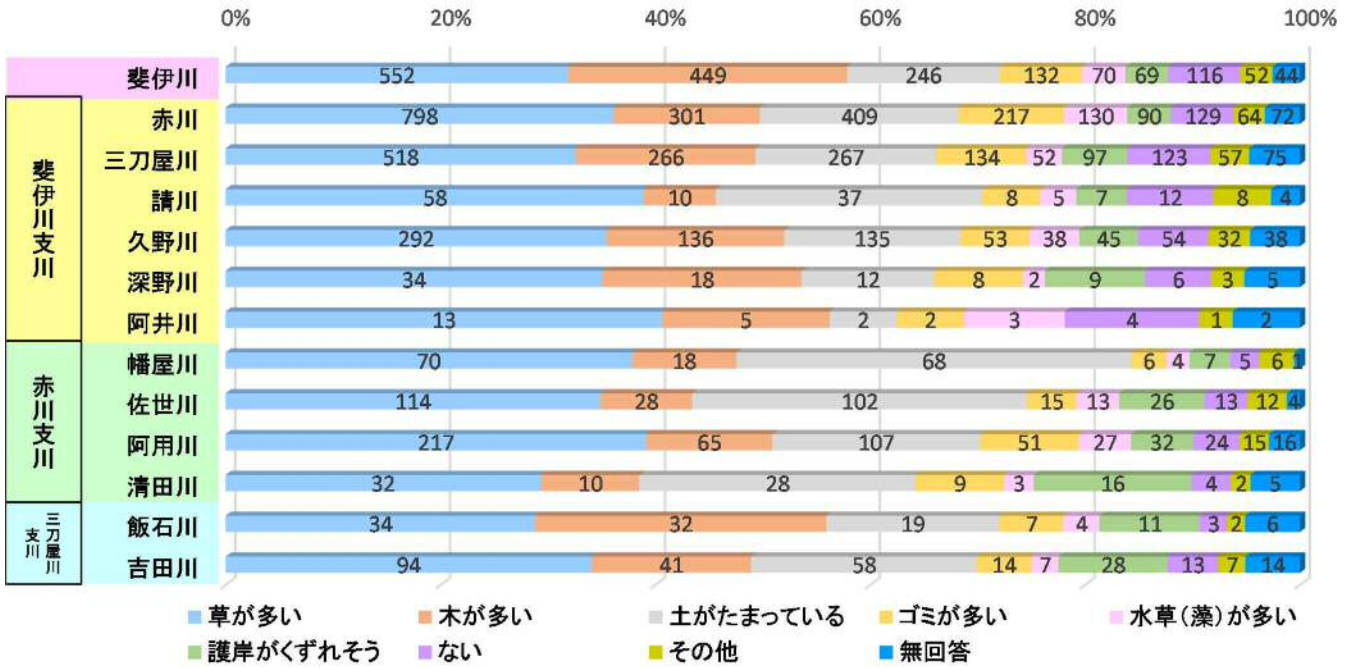
● 「維持管理」

Q11 身近な川で、日頃から気になっていることは次のうちどれですか【複数回答可】

選択肢	回答数（人）
草が多い	2,971
土がたまっている	1,674
木が多い	1,362
ゴミが多い	655
護岸がくずれそう	537
水草（藻）が多い	367
ない	536
その他	279
無回答	308



【河川別】



※母数は河川別の回答数

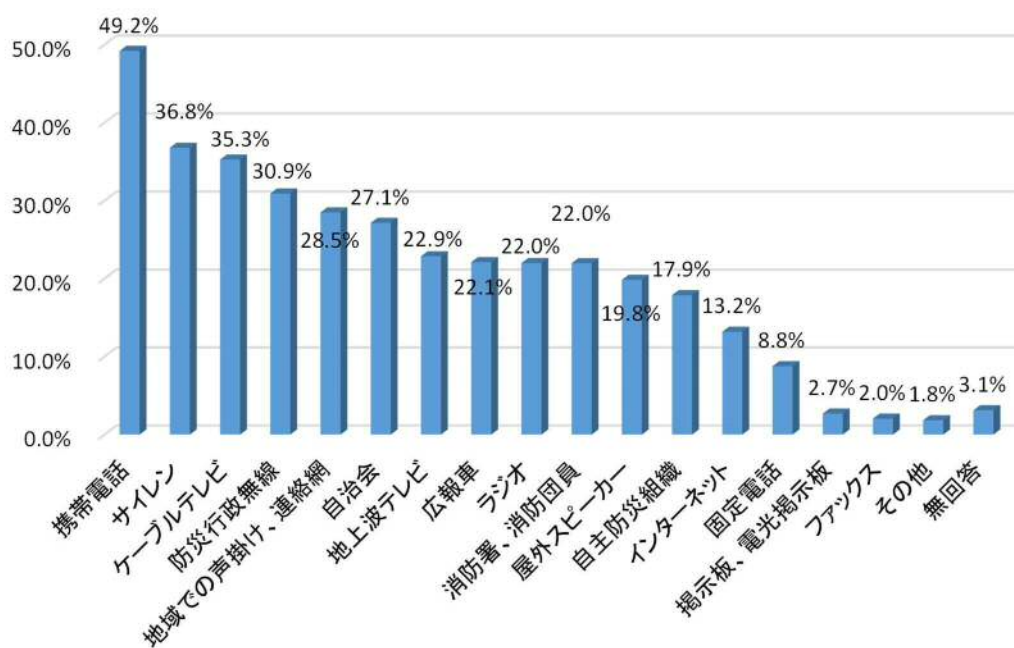
【回答の傾向】

- ・ 治水、河川環境と同様に「草が多い」、「土がたまっている」ことを気にしている人が多い。

● 「防災・減災」

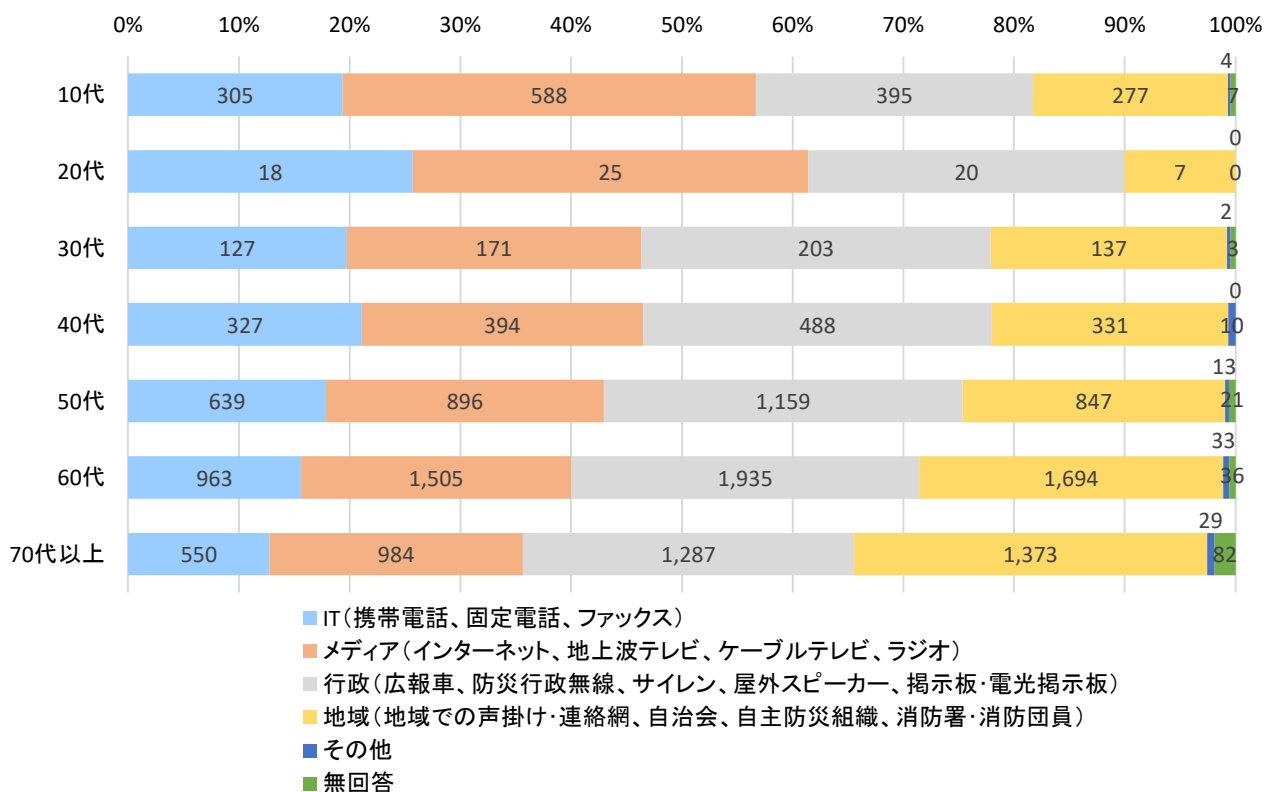
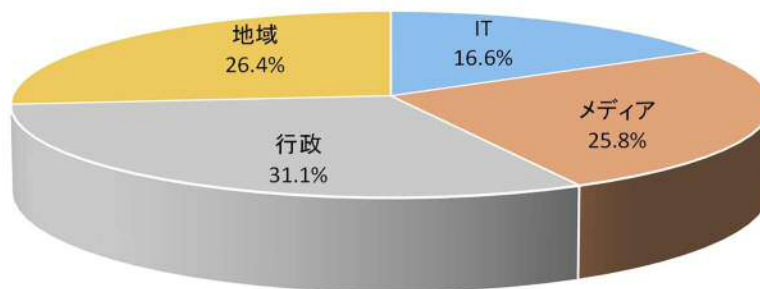
Q12 防災・災害情報の入手で有効と思われるのは次のうちどれですか【複数回答可】

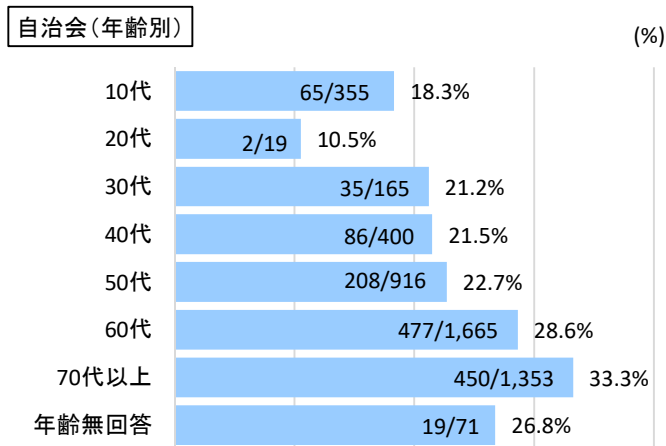
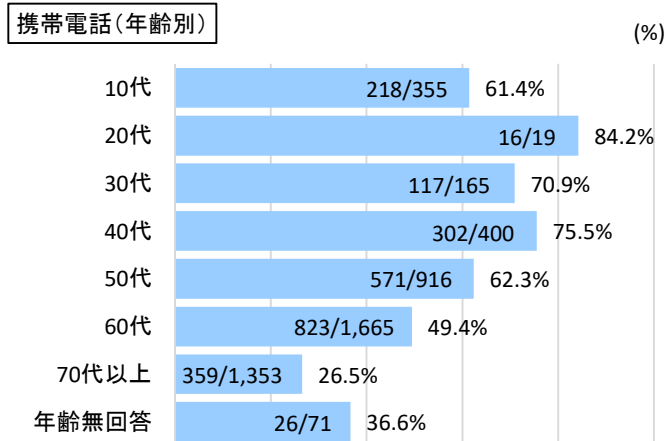
選択肢	回答数（人）	選択肢	回答数（人）
携帯電話	2,432	消防署、消防団員	1,086
サイレン	1,818	屋外スピーカー	981
ケーブルテレビ	1,743	自主防災組織	884
防災行政無線	1,528	インターネット	652
地域での声掛け、連絡網	1,408	固定電話	433
自治会	1,342	掲示板、電光掲示板	133
地上波テレビ	1,130	ファックス	101
広報車	1,093	その他	91
ラジオ	1,087	無回答	154



【分類別】

- I T : 携帯電話、固定電話、ファックス
- メディア : インターネット、地上波テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ
- 行政 : 広報車、防災行政無線、サイレン、屋外スピーカー、掲示板・電光掲示板
- 地域 : 地域での声掛け・連絡網、自治会、自主防災組織、消防署・消防団員





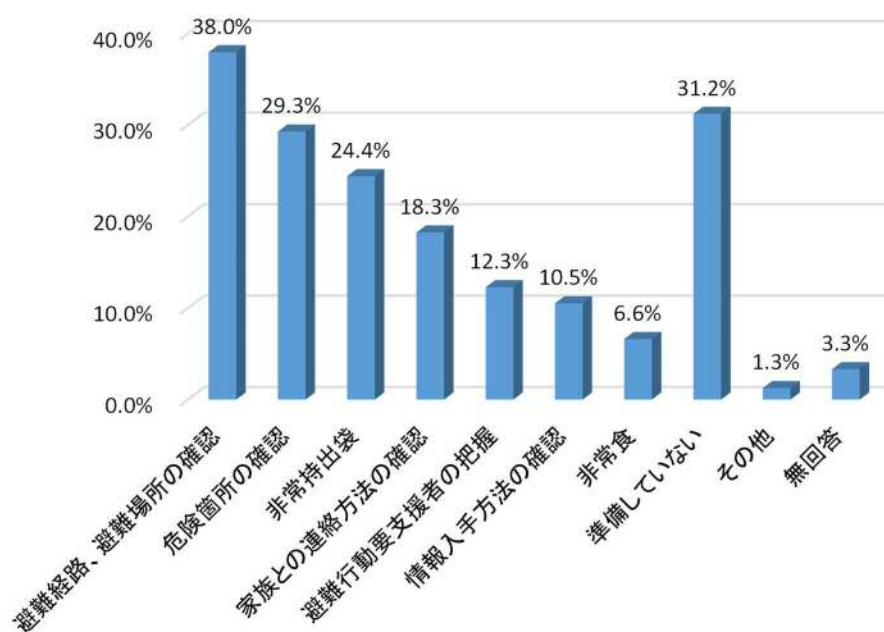
※母数はアンケート回答した年齢別の回答数

【回答の傾向】

- 全体の分類別で見ると、「IT」、「メディア」、「行政」、「地域」の割合に大きな差はなく、様々な手段を選んでいる。
- 年齢別に見ると、年齢層が低くなるほど「IT」や「メディア」の割合が増加傾向にあるのに対し、「地域」の割合は年齢層が高くなるほど増加している。

Q13 災害の発生に備え、日頃どのような準備をしていますか【複数回答可】

選択肢	回答数（人）
避難経路、避難場所の確認	1,877
危険箇所の確認	1,448
非常持出袋	1,207
家族との連絡方法の確認	903
避難行動要支援者の把握	607
情報入手方法の確認	520
非常食	327
準備していない	1,544
その他	62
無回答	164

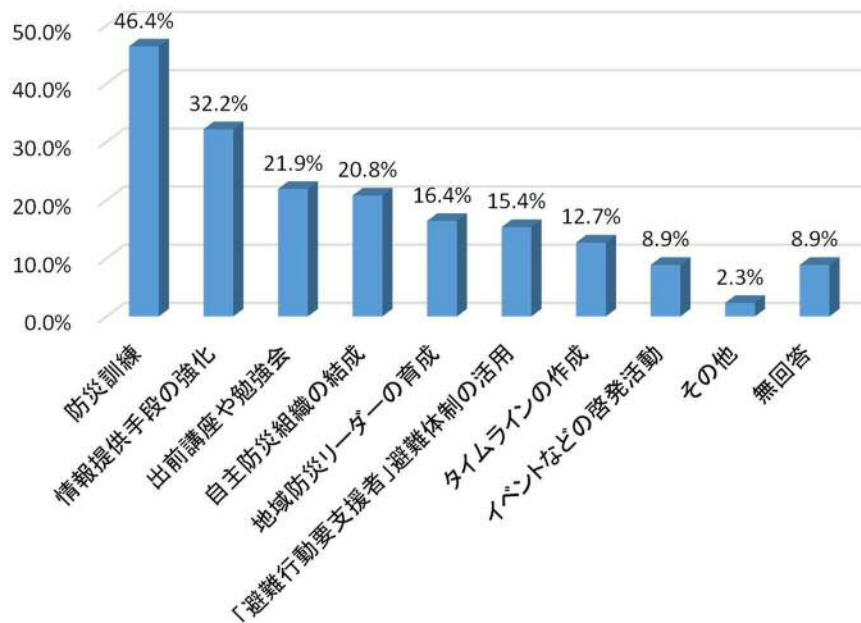


【回答の傾向】

- ・災害の発生に備えて、約7割の人が何かしらの準備をしている状況であり、防災に対する意識が高い。

Q14 災害時に迅速な避難行動を行うためには何が有効ですか【複数回答可】

選択肢	回答数（人）
防災訓練	2,294
情報提供手段の強化	1,590
出前講座や勉強会	1,083
自主防災組織の結成	1,027
地域防災リーダーの育成	811
「避難行動要支援者」避難体制の活用	759
タイムラインの作成	628
イベントなどの啓発活動	438
その他	115
無回答	438

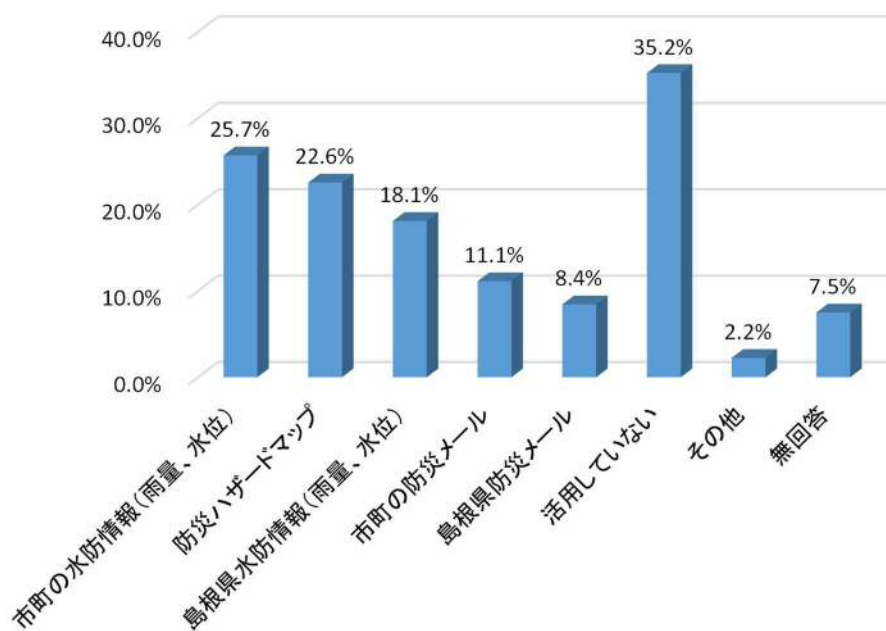


【回答の傾向】

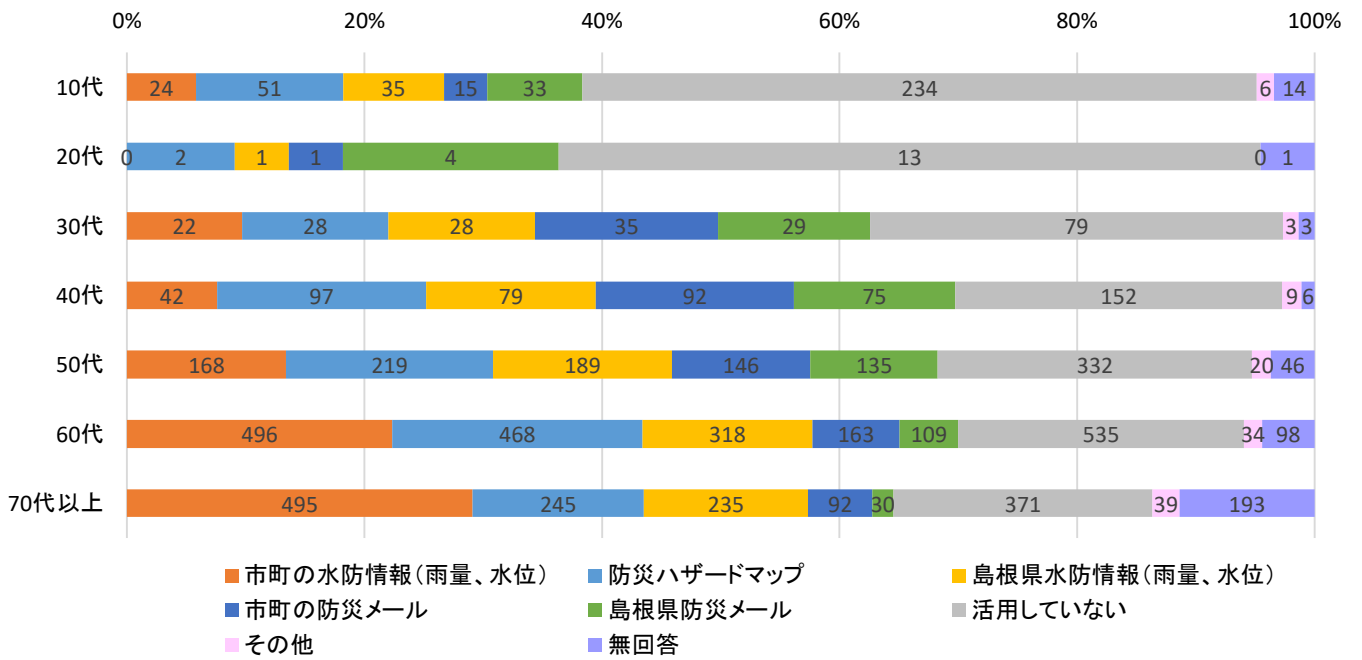
- ・「防災訓練」と回答する割合が約半数になっている。
- ・『「避難行動要支援者」避難体制の活用』の回答が15%程度占めており、「共助」の意識が高いと考えられる。

Q15 防災情報を活用していますか【複数回答可】

選択肢	回答数 (人)
市町の水防情報 (雨量・水位)	1,270
防災ハザードマップ	1,115
島根県水防情報 (雨量・水位)	895
市町の防災メール	550
島根県防災メール	417
活用していない	1,742
その他	111
無回答	371



【年齢別】



【回答の傾向】

- ・全体では、「活用していない」が最も多く、約 1/3 を占めている。
- ・島根県および市町の「防災メール」についてはどちらも約 1 割、「防災ハザードマップ」についても約 2 割となっており、広く周知する必要がある。
- ・年齢別では、60 代以上では島根県および市町の「防災メール」を活用している人の割合が低い。

Q16 設問以外のご意見をお聞かせください【自由意見】

●「治水」に関する事項

●「河川環境」に関する事項

- ・もっと水に触れあえる環境としてほしい。(草木の伐採、川底に溜まった土砂の撤去、階段の整備など)
- ・川を昔のきれいな状態に戻してほしい。[大東町、木次町]
- ・水質調査を実施してほしい、水質改善への取り組みが必要。
- ・魚等の水生生物が増えるようにしてほしい。[大東町、木次町]
- ・堰、ダムが魚の遡上を妨げている。[大東町]
- ・ホテル、オオサンショウウオのいる川にしたい。[大東町、木次町]
- ・外来生物(ヌートリアなど)の防除、駆除をしてほしい。
- ・サギ類、カワウによる食害あり、駆除してほしい。

●「利用」に関する事項

- ・漁協の規制を緩和し、地域住民が気軽に釣りに行けるようにしてほしい。
- ・河川に対して住民の意識は低い。地域で川に親しむイベント(自然観察会など)も必要。
- ・ホテル等、四季を通じて河川周辺でのイベントを行い、地域を宣伝・活性化させたい。

●「維持管理」に関する事項

- ・高齢化に伴い、伐採や伐木の作業が困難となっている。管理者として堆積土砂の撤去も含めて維持管理を実施してほしい。
- ・小河川にも目を配ってほしい。[加茂町]

●「防災・減災」に関する事項

【避難】

- ・防災訓練の実施。実際、どうしていいか分からない。
- ・避難場所、避難経路が分からない。
- ・自主組織で避難訓練が行われたが、避難経路は災害時に道路冠水するため避難できない。もっと現地を調べて周囲の人に現地状況を聞いてほしい。
- ・近年、大きな災害が少なく、防災意識が低い。意識改革をする必要がある。
- ・防災、減災に対して、どのように行動したらよいか分からない。
- ・自治会で防災の係があり、年に数回でも勉強会や訓練などを行ってほしい。
- ・高齢化に伴い、これからますます地域の助け合いが必要とされる。いざという時にスムーズに行動できるよう、行政からの指導が必要と思う。
- ・大東町では地区防災組織が結成され、当自治会でも自主防災組織を作り、防災講座や勉強会などを行っている。
- ・動けない人(足が悪い人や高齢者など)はどうすればいいのか、訓練の時に教えてもらいたい。

【情報】

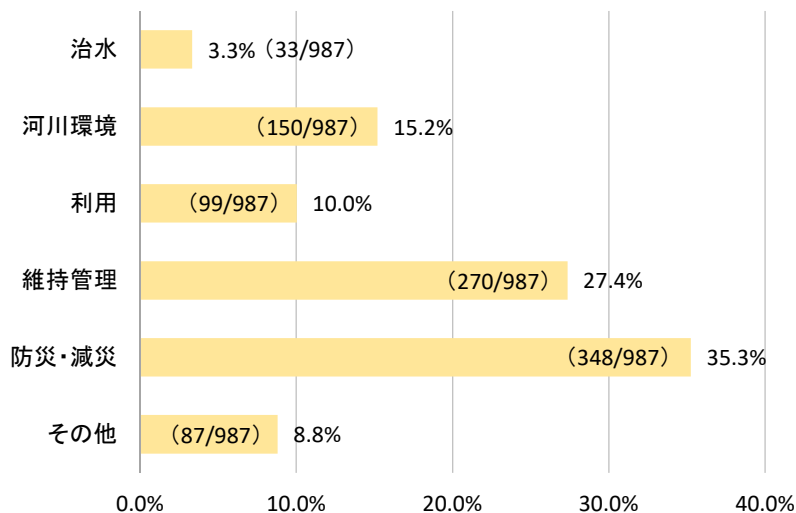
- ・暴風雨（雪）の状況の中では、気密性の高い家屋では、音（サイレン、スピーカー、広報車など）による連絡は意外に役に立たない。
- ・行政などから出される防災文書等は、小さな活字であってもこれも書かれており、分かりにくい。また、使用される単語も難しく、理解できない。
- ・メールやネットは誰もが使えるわけではない。使えない人への対応も考慮してもらいたい。
- ・川がどの程度で危険になるのか分からない。「〇mm 以上で危険」などの情報が知りたい。
- ・災害時の携帯電話は有効な手段だとは思いますが、どこにかけていいのかわからない。

●「その他」に関する事項

- ・行政に頼る前に、地域での話し合いをしっかりと行うべき。ただし、意見がまとまらず連帯感がなくなる場合があるため、外部からのアドバイスも必要。
- ・高齢者人口が多いなか、安心して暮らせるよう十分意見を聞いてほしい。
- ・アンケート調査をするだけでなく、アンケート結果と今後の方針を分かるように報告してほしい。

[自由意見回答者数：830人（回答内容数：987）]

自由意見 項目別回答割合



※上記グラフの「防災・減災」には河川に関するだけでなく、道路や斜面等に関する事項も含まれる。

1.3 アンケート結果総括

前項のアンケート集計結果をもとに、「治水」に関する設問、「河川環境」に関する設問別に選択肢の回答率が50%を超えた河川を抽出し整理する。

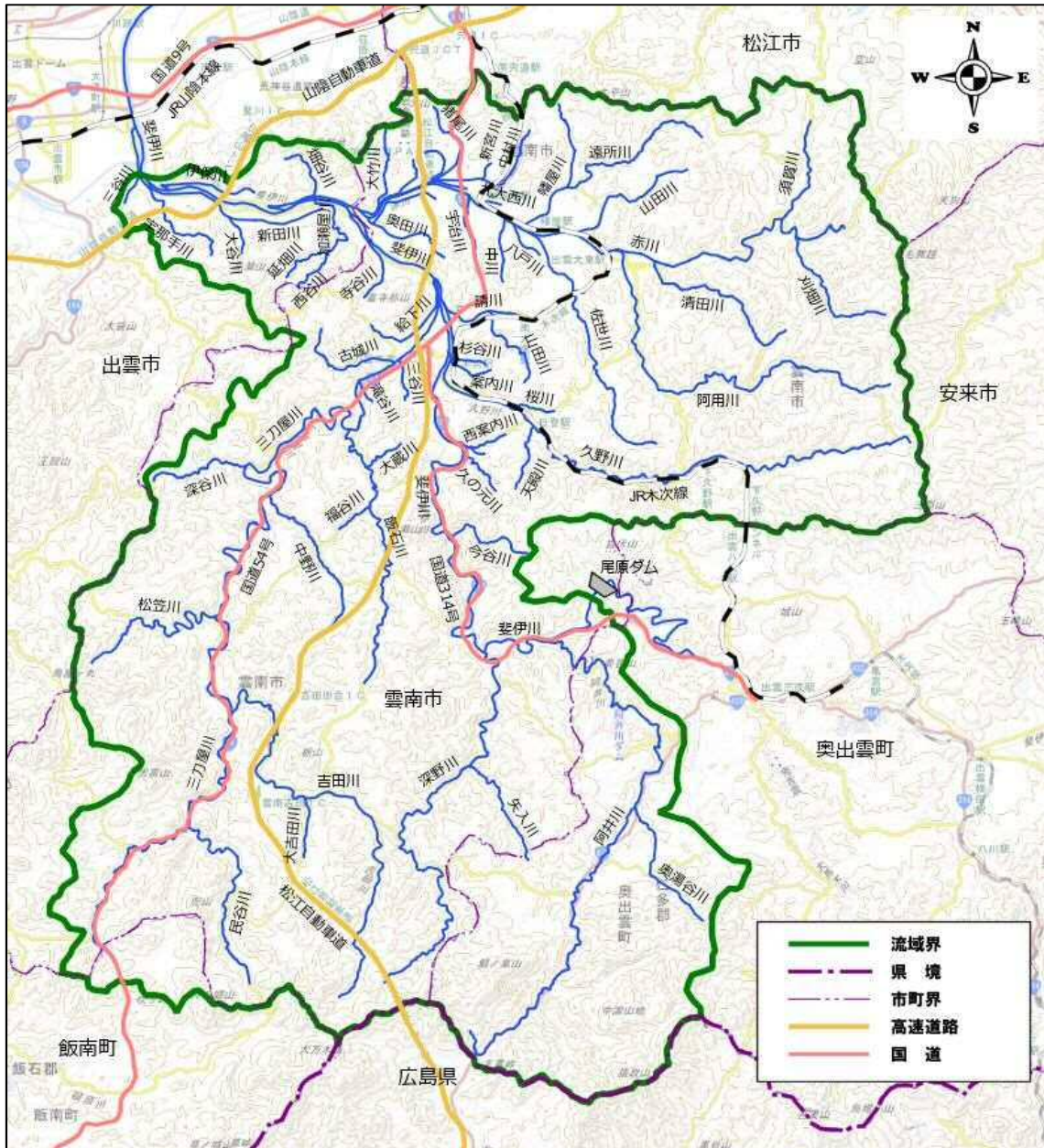
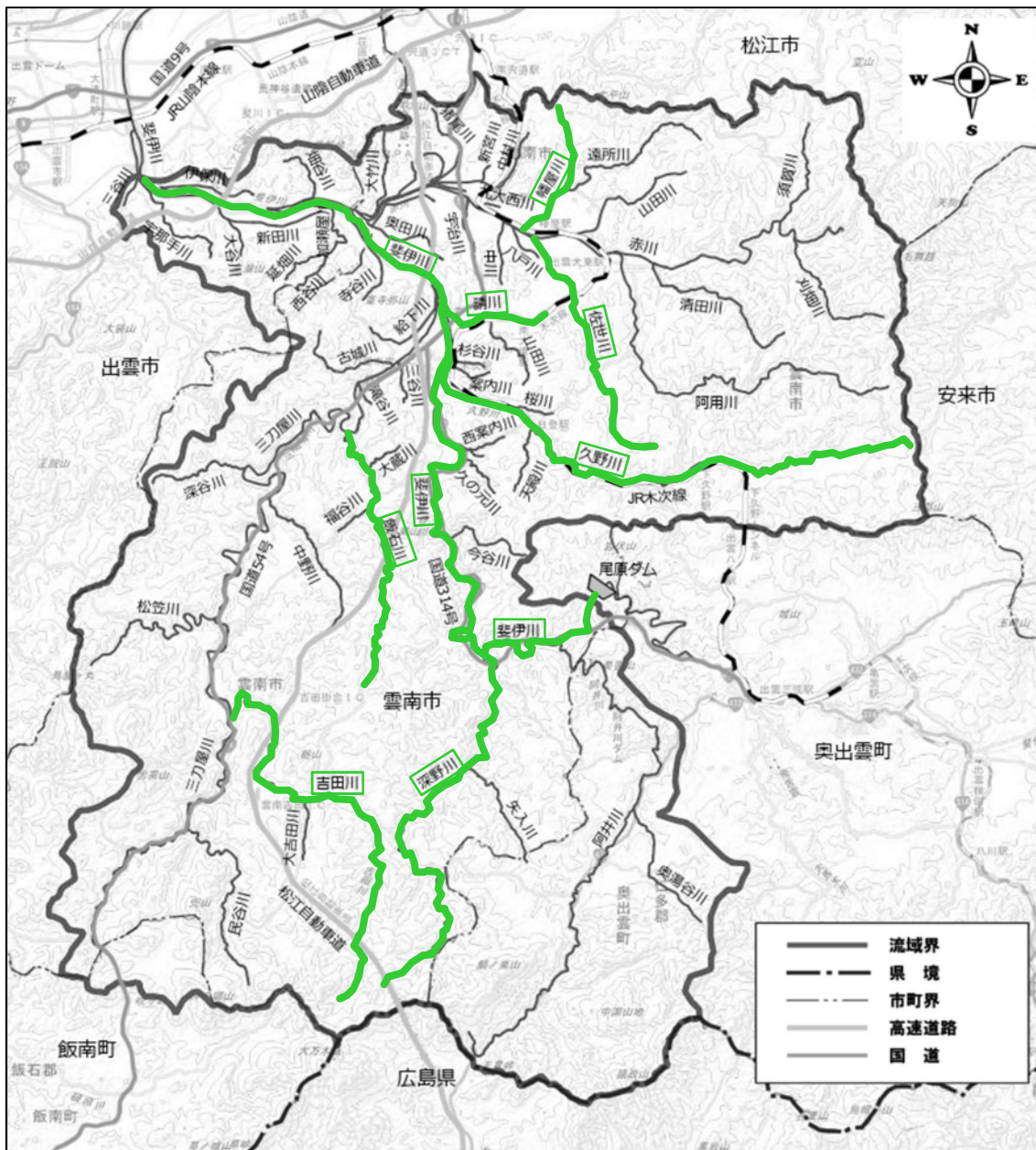


図-1.2 斐伊川水系中流支川域 県管理河川位置図

●「治水」

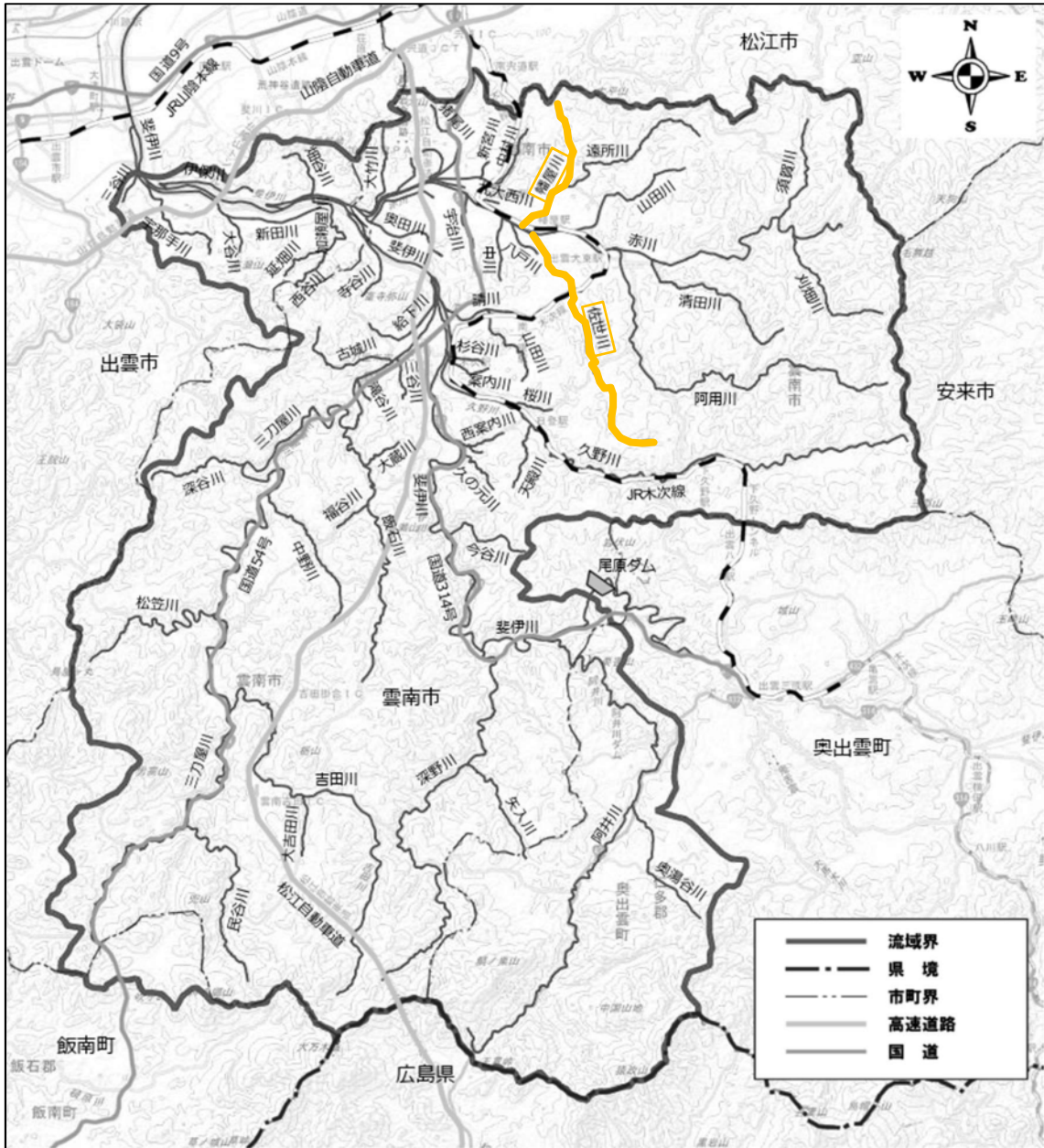
大雨時に危険と感じる理由



※大雨時に危険と感じる割合が50%以上の河川を抽出。

図-1.3 (1) 「草木が茂っている」と回答した河川

大雨時に危険と感じる理由



※大雨時に危険と感じる割合が50%以上の河川を抽出。

図-1.3 (2) 「土がたまっている」と回答した河川

現在取り組まれていること

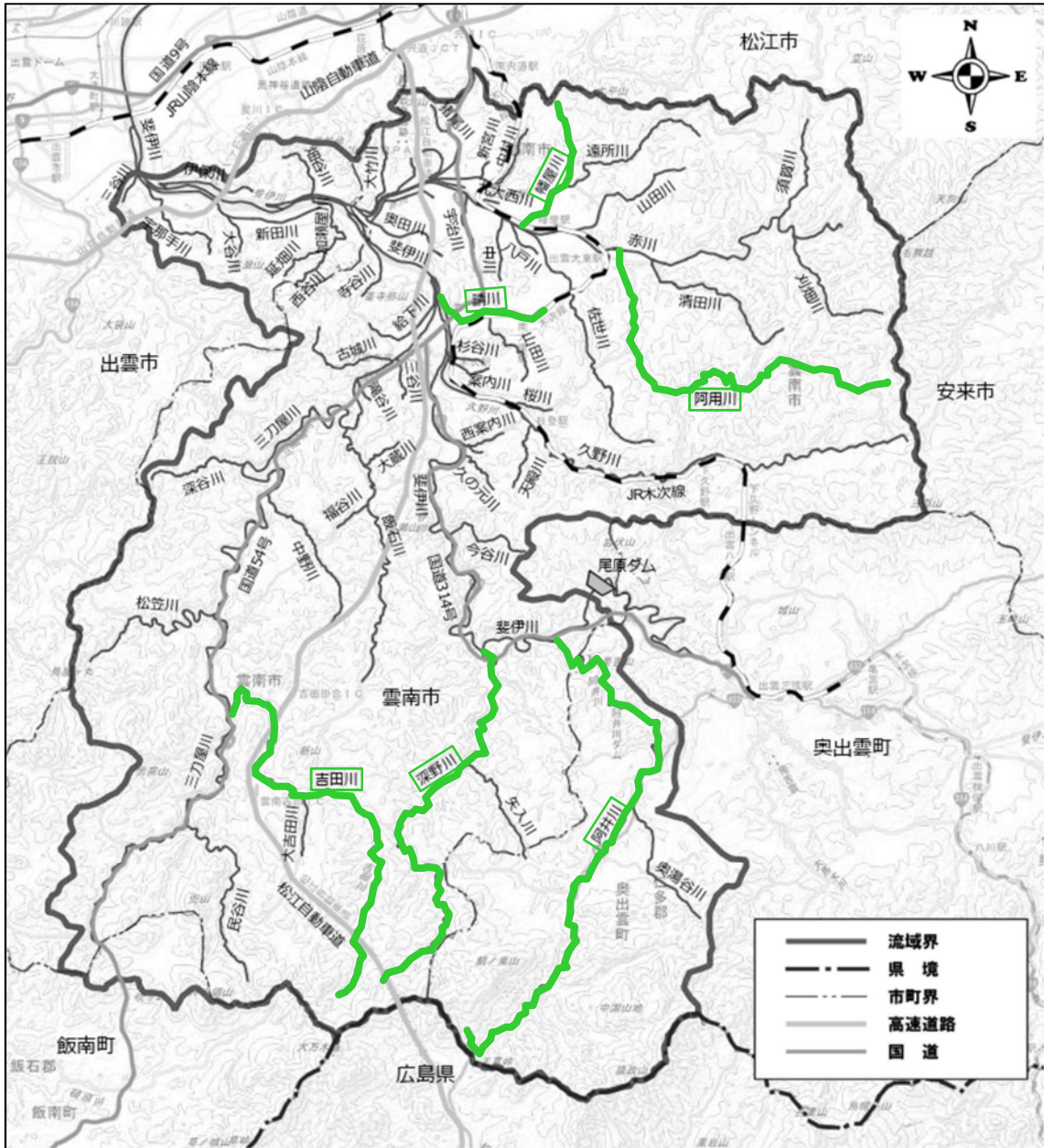


図-1.5 「草刈り」と回答した河川

●「維持管理」

日頃から気になっていること

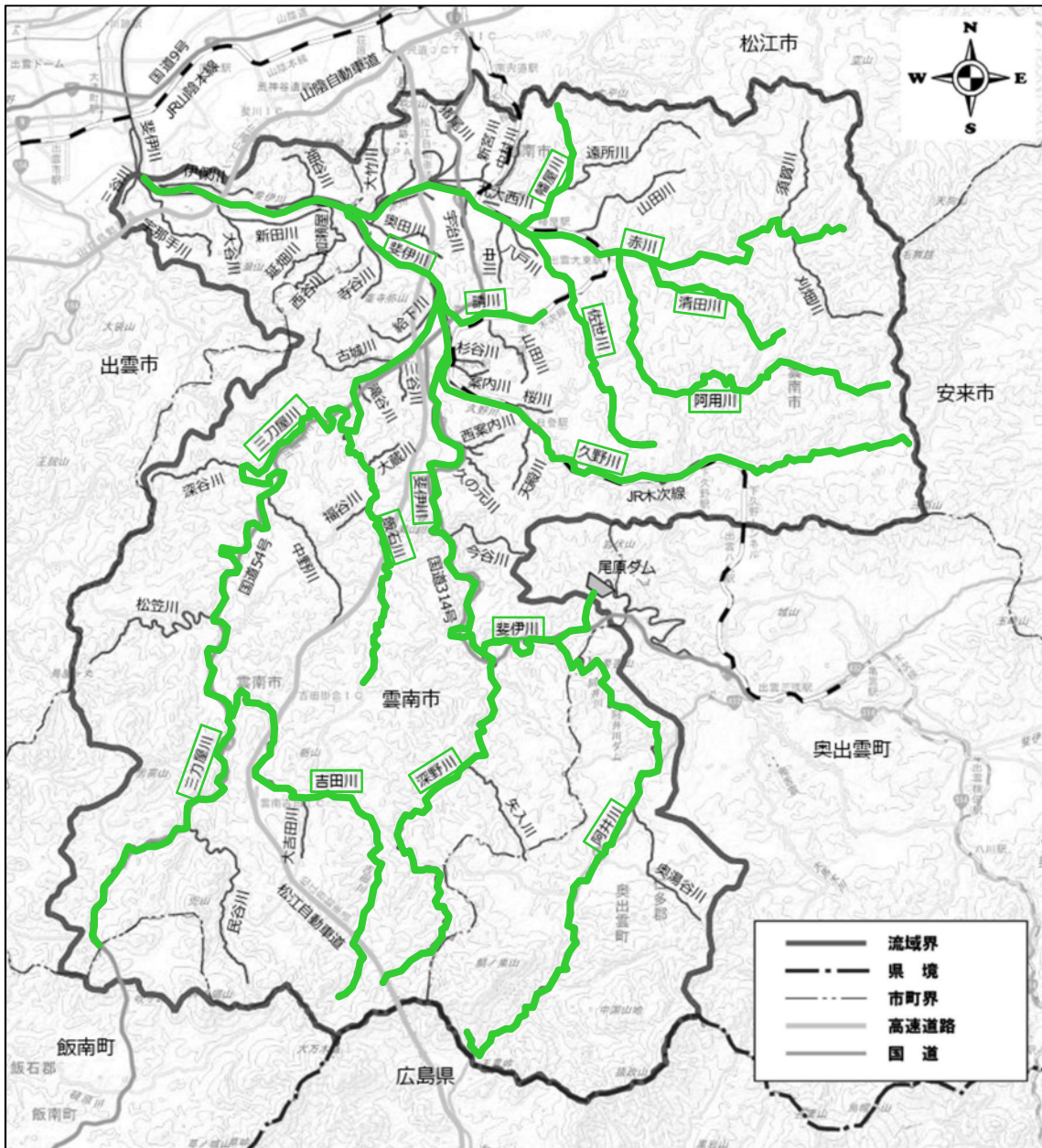


図-1.7 (1) 「草木が多い」と回答した河川

日頃から気になっていること

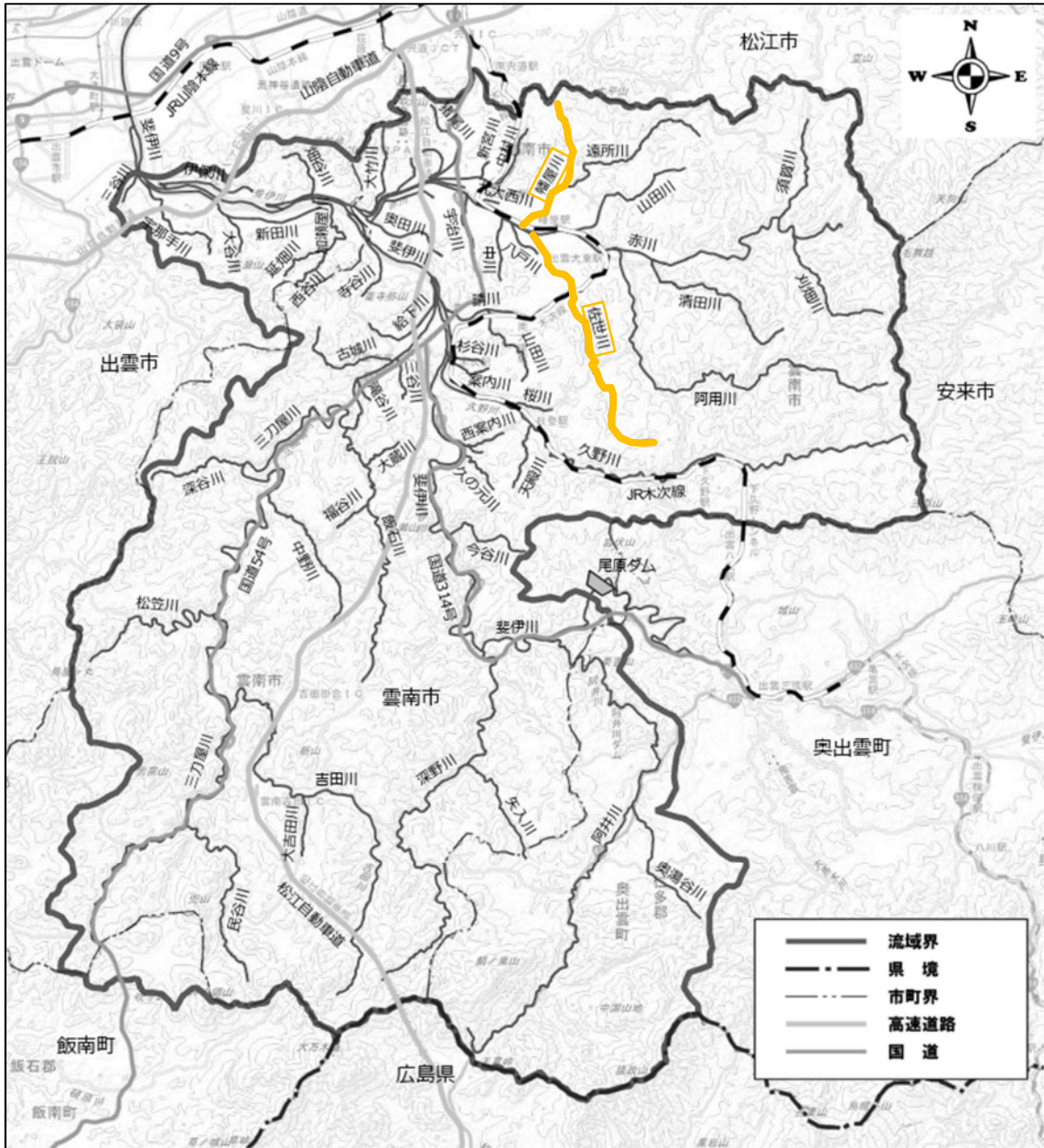


図-1.7 (2) 「土がたまっている」と回答した河川

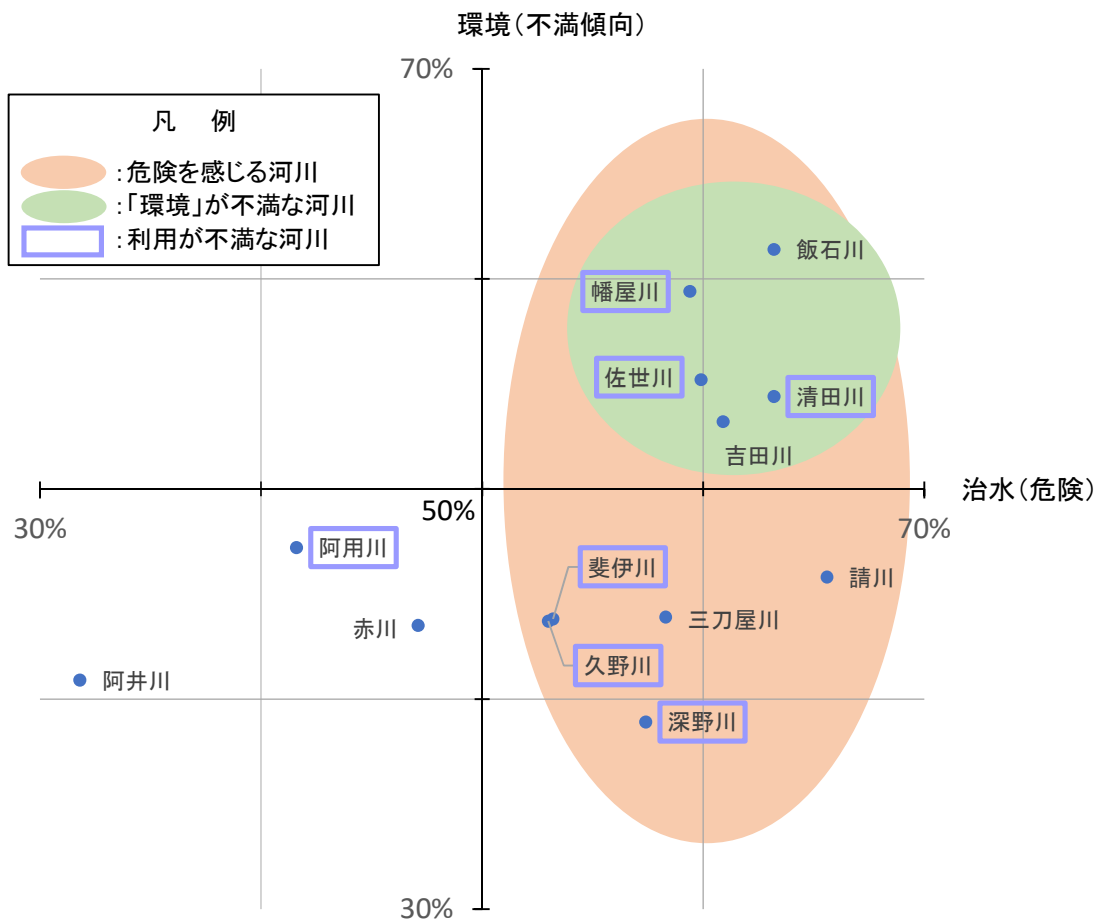


図-1.8 環境（不満傾向）・治水（危険）・利用の相関図

【結果総括】

- ・ 治水と河川環境の両面で危険、不満な状況にあるのは5河川である。

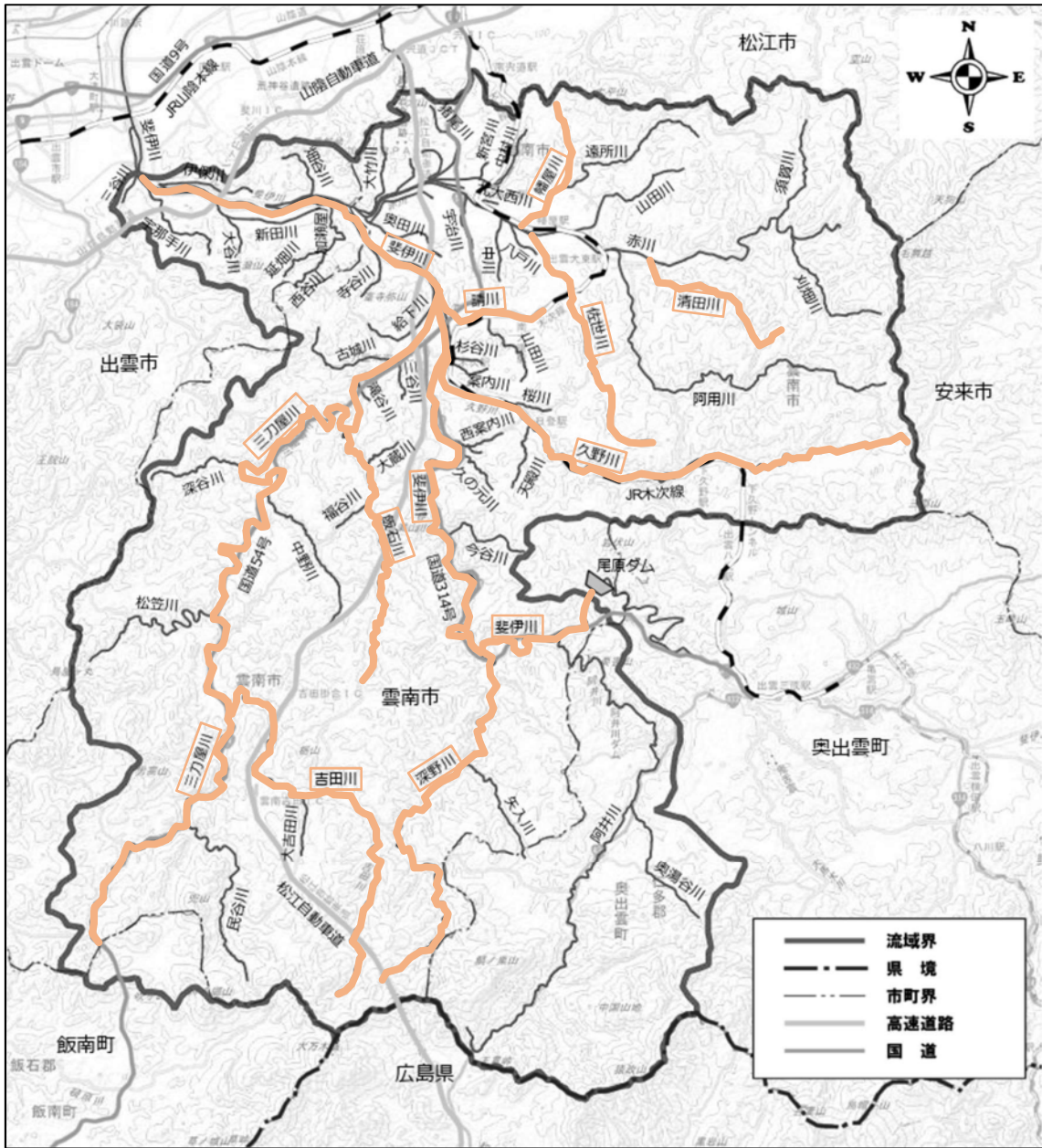


図-1.9 (1) 危険を感じる河川 (50%以上の回答)

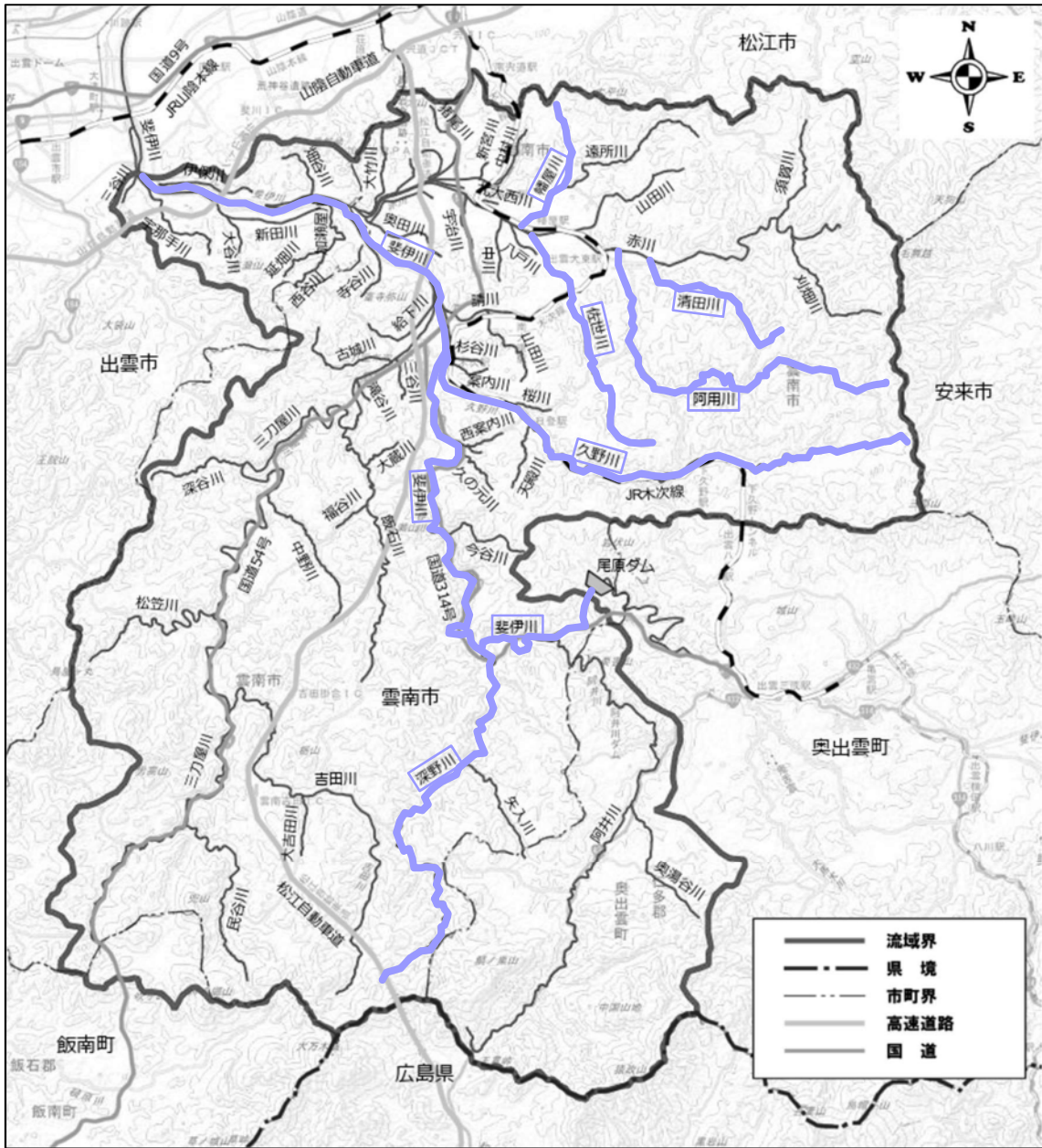


図-1.9 (3) 「利用」が不満な河川 (50%以上の回答)

1.4 整備計画への反映

アンケート結果	頁	整備計画への反映(網掛部分)
<p>【Q4】【Q16】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な川で大雨時に危険を感じる理由として「草木が茂っている」が5割以上を占め、次いで「土がたまっている」が4割となっている。 治水、環境の両面で「草が多い」「土がたまっている」ことを気にしている人が多い。 「高齢化に伴い、伐採伐木作業が困難」「堆積土砂の撤去も含めて維持管理を実施してほしい」との自由意見あり。 ⇒『河床の維持』『伐採、除草等による維持』について記載。 	<p>本文 P27</p>	<p>4. 河川の整備の実施に関する事項</p> <p>4.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所</p> <p>(1) 河道の維持管理</p> <p>河道の流下能力を確保するため、流下能力への影響、河川管理施設への影響、地域状況等を考慮し、必要に応じて対策を実施します。</p> <p>本圏域では近年、主に斐伊川、赤川、三刀屋川、久野川等の土砂撤去や立木の伐採を進めています。今後、その他の河川についても必要に応じて実施します。</p> <p>1) 河床の維持</p> <p>河床の土砂堆積が著しく洪水の流下に阻害が生じる場合は、環境面にも配慮しつつ掘削等必要な対策を講じます。</p> <p>土砂撤去の際には、従来からあった瀬や淵、みお筋をできるだけ残し、現地の石材を搬出せずに水際に残置することで、生物の生息・生育環境に配慮します。</p> <p>また、出水等による河床の低下は、・・・。</p> <p>図-4.4 堆積土砂撤去イメージ図</p>
<p>【Q6】【Q16】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な川の環境への不満理由で「生き物が少ない」が2番目に多く、「魚等の水生生物が増えるようにしてほしい」、「ホタル、オオサンショウウオのいる川にしたい」との自由意見も多い。 ⇒『多自然川づくり』『多様な水生生物の生息する良好な水質の維持』について記載。 	<p>本文 P28</p>	<p>2) 伐採、除草等による維持</p> <p>河道内立木の繁茂状況を定期的に調査し、洪水等の安全な流下や河川管理施設の管理に支障となる場合は、関係機関や愛護団体と連携・協力し、立木の伐採、除草等を計画的に行います。良好な河川環境の形成に寄与している樹木は、できるだけ存置します。</p> <p>図-4.5 立木伐採イメージ図</p>
<p>【Q6】【Q16】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な川の環境への不満理由で「水が汚い」を約2割の人が挙げており、自由意見でも「水質調査の実施」や「水質改善への取り組み」への要望がある。 ⇒『水質調査結果』の掲載。 	<p>本文 p23</p>	<p>(2) 河川環境の整備と保全に関する目標</p> <p>河川の整備を行う際には、多自然川づくりを基本とし、水際に変化をつけたり、瀬や淵など川の持つ自然形態を極力活かすとともに、水生生物の移動が可能となるよう河川の連続性の確保に努めるなど、在来動植物の良好な生息・生育環境に配慮します。また、・・・。</p> <p>なお、河川の水質については、ゲンジボタルをはじめとした多様な水生生物の生息する良好な水質を維持するため、下水道の整備やその他の河川浄化対策を関係機関及び地元住民と連携して行い、環境基準を維持できるよう努めます。</p>
<p>【Q6】【Q16】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な川の環境への不満理由で「水が汚い」を約2割の人が挙げており、自由意見でも「水質調査の実施」や「水質改善への取り組み」への要望がある。 ⇒『水質調査結果』の掲載。 	<p>付属 p71 ～74</p>	<p>10. 水質</p> <p>10.1 河川水質</p> <p>・・・環境基準点である里熊大橋地点では、近年10か年間に於いて環境基準を達成しており、良好な水質が保たれている。支川においても概ね河川A～AA類型相当の水質を維持しており、水質は良好なものとなっている。</p> <p>図-10.1 水質調査地点</p> <p>表-10.3 斐伊川水系中流支川域の水質調査結果</p> <p>図-10.2 水質の経年変化</p>

アンケート結果	頁	整備計画への反映(網掛部分)
<p>【Q7】【Q8】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在取り組まれていることで「草刈り」が最も多く、約 5 割を占める。 ・今後新たに取り組みたいこととして「草刈り、伐木」などの意見がある。 ⇒周知のため『ハートフルしまね』について記載。 	本文 P30	<p>5.2 地域や関係機関との連携</p> <p>(1) 河川愛護活動の支援</p> <p>斐伊川……。斐伊川水系中流支川域の良好な河川環境を後世に引き継いでいくため、川に対する関心が高まるよう「ハートフルしまね(島根県公共土木施設愛護ボランティア支援制度)」などを通じて、地元自治会や関係機関と連携・協力して森林保全、河川愛護の普及・啓発、草刈、清掃等の河川美化活動の支援、地域で行われるイベントや活動等の地域づくりの支援に努めます。</p>
	付属 P83	<p>12. 官民協働の取り組み</p> <p>斐伊川水系中流支川域の河川空間は、地域の住民や観光客によって様々に利用されている一方、毎年地元住民により、河道内の草刈りや河川清掃などの維持管理も行われている。</p> <p>【ハートフルしまね(島根県公共土木施設愛護ボランティア支援制度)】</p> <p>現在、……。島根県では、このような社会貢献活動を応援するため、平成 21 年度から「ハートフルしまね」(http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/river/kasen/volunteer/heartful/)という支援制度を作り、従来、道路など一部のボランティア活動が対象であったものを、島根県が管理する道路・河川・海岸・公園・砂防施設・港湾における活動にまで対象を広げ、さらに新たな取り組み支援も行っている。</p> <p>表-12.1 支援制度の内容</p>
<p>【Q9】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な川の利用方法として「散歩・サイクリング」「自然観察」などの割合が高い。 	本文 p22	<p>④河川空間の利用状況</p> <p>古くから地域を支えてきた斐伊川水系中流支川域は、散歩やサイクリング、釣りなどに利用され、……。なかでも赤川上流の「七夕公園」では、ホテルが棲める水路を設け、人と自然との共存を目指した河川公園として整備され、自然観察の場として利用されているほか、……。</p>
	付属 p33	<p>4. 景観・観光</p> <p>4.3 河川空間の利用</p> <p>本圏域の河川空間利用は、堤防上における散歩や水際における釣りが多い。河川に関する観光は、遊漁や溪流部の景勝地のほか、斐伊川や三刀屋川での花見や赤川でのホテル鑑賞がある。</p>
<p>【Q10】【Q16】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な川の利用への不満理由で「水辺に近づきにくい」が最も多く、約半数の人が不満を感じている。 ・「河川周辺でのイベントを行い、地域を宣伝・活性化させたい」などの自由意見あり。 ⇒『河川との触れ合いの場の確保』について記載。 	本文 p22	<p>④河川空間の利用状況 [2 段落目]</p> <p>このように、……。一方で、身近な川については水辺に近づきにくいと感じている住民が多い傾向にあります。</p>
	本文 p23	<p>(2) 河川環境の整備と保全に関する目標</p> <p>河川の整備を行う際には、……。また、地域住民の生活環境はもとより、沿川景観と調和した水辺空間の形成及び河川との触れ合いの場の確保に努めます。さらに、地域住民の活動と連携しつつ、美しい河川環境を維持するよう努めます。</p>
<p>【Q14】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に迅速な避難行動を行うために「防災訓練」が有効と回答する割合が約半数になっている。 ⇒『地域防災活動の支援』について記載。 	本文 P30	<p>5.1 河川情報の提供 [3 段落目]</p> <p>また、本圏域内の市町と連携して、非常時の危険箇所や避難場所等を示したハザードマップの普及推進を行うとともに、各地区で実施されている地域住民による防災活動等とも連携しながら住民の安全や避難行動、地域防災活動を支援します。</p>

アンケート結果	頁	整備計画への反映(網掛部分)
<p>【Q15】【Q16】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災情報を「活用していない」が最も多く、約1/3を占めている。 ⇒『情報提供』について記載。 ・「防災ハザードマップ」の活用は約2割であり、「避難場所、避難経路が分からない」との自由意見もある。 ⇒『ハザードマップの普及推進』について記載。 ⇒周知のため『ハザードマップ公表状況』を記載。 ・「防災メール」の活用は約1割である。 ⇒周知のため『しまね防災情報ホームページ』のアドレス、イメージ図を記載。 	本文 P12	<p>3. 河川整備計画の目標に関する事項</p> <p>3.1 洪水等による災害の発生と防止又は軽減に関する事項</p> <p>(2) 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する目標 〔3段落目〕</p> <p>また、整備段階での洪水や計画規模を上回る洪水に対しても被害を最小限に食い止めるため、インターネット等によるリアルタイムの河川水位や雨量情報の提供を行うほか、危険箇所や避難場所等を地図上に示したハザードマップの普及推進などにより、平常時から防災意識の向上を図ります。</p>
	本文 P30	<p>5. 河川の整備を総合的に行うために必要なその他の事項</p> <p>5.1 河川情報の提供〔2段落目〕</p> <p>「島根県水防情報システム」等により、県内一円に配置した観測局で雨量・水位のデータをリアルタイムで収集、管理するとともに、「島根県総合防災情報システム」の「しまね防災情報」を通じて、流域住民に河川に関する情報を提供することにより、適切な河川管理や防災体制の一層の充実を図ります。</p> <p>また、本圏域内の市町と連携して、非常時の危険箇所や避難場所等を示したハザードマップの普及推進を行うとともに、・・・。</p>
	本文 P31	<p>(3) 緊急時における対応</p> <p>河川整備段階での洪水や計画規模を上回る洪水に対しても、被害を最小限に食い止めるため、平常時から防災意識の向上を図り、関係機関と連携して河川水位や雨量情報などの取得方法を流域住民に周知します。また、本圏域内の市町村との連携による水防活動の実施、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等、関係機関や自主防災組織、地域住民等と協力して総合的な被害軽減対策を講じます。</p> <p>図-4.4 しまね防災情報ホームページ (http://www.bousai-shimane.jp/)</p>
	付属 P58	<p>8.4 被害軽減対策</p> <p>(1) 島根県総合防災情報システム</p> <p>島根県では、・・・以降、気象・防災情報等を一元的に集約した、県民向けホームページ「しまね防災情報」(http://www.bousai-shimane.jp/)を開設したほか、気象情報等をメールで配信する「しまね防災メール」サービスを提供する等の機能強化を行っている。</p>
付属 P59	<p>(2) ハザードマップ</p> <p>島根県では、・・・ハザードマップは、洪水時の円滑かつ迅速な避難や水災による被害を軽減するため、避難所や避難経路等、避難行動をとる際に必要な情報を記載したものである。</p> <p>斐伊川水系中流支川域においては、関係市町である出雲市、雲南市、奥出雲町、飯南町がそれぞれ地区を分割し、洪水や土砂災害に関するハザードマップを作成している。</p> <p>表-8.3 本圏域におけるハザードマップ公表状況</p>	

アンケート結果	頁	整備計画への反映(網掛部分)
【Q16】 ・「ホタルのいる川にしたい」「ホタル等、四季を通じて河川周辺でのイベントを行い、地域を宣伝・活性化させたい」との自由意見あり。	本文 p2	1. 流域と河川の概要 (自然環境) [3 段落目] また、雲南市大東町を流れる赤川はホタルの名所として知られ、地域住民による保護・増殖活動の取り組みや、雲南市による天然記念物指定、保護条例の制定などにより、「ホタルの里づくり」が進められています。
	本文 P21	3.3 河川環境の整備と保全に関する事項 (1) 河川環境の現状と人々との関わり ③生息・生育する主な生き物 河岸には……。河道内には……。また、赤川水系はゲンジボタルの生息地として知られています。
	付属 p15	2. 自然環境 2.3 自然保護 (4)雲南市ほたる保護条例 雲南市では、自然保護及び観光事業発展のため、「大東町ほたる保護条例」(昭和58年制定)を引き継ぎ、平成16年に「雲南市ほたる保護条例」が制定されている。市内に発生するホタルを保護し、その増殖を図ることを目的として、雲南市全域でホタルを採らないように努めるとともに、小河内、南村、中湯石、新庄、川井及び下阿用の地内を保護区域とし、この区域内での捕獲を禁止している。
	付属 P20	(5)昆虫類 [2 段落目] また、赤川水系はゲンジボタルの名所として知られ、地域住民による保護・増殖活動が行われているほか、雲南市の天然記念物指定や雲南市ほたる保護条例の制定により、「ホタルの里づくり」が進められている。
【Q16】 ・「堰、ダムが魚の遡上を妨げている」との自由意見あり。 ⇒『回遊魚』について記載。 ⇒『河川の連続性の確保』について記載。	本文 P21	③生息・生育する主な生き物 [2 段落目] 瀬には……。アユのほか、ウグイ、カジカ中卵型(ウツセミカジカ(中卵型:両側回遊型))、オオヨシノボリなどの回遊魚も見られます。
	本文 p23	(2) 河川環境の整備と保全に関する目標 河川の整備を行う際には、多自然川づくりを基本とし、水際に変化をつけたり、瀬や淵など川の持つ自然形態を極力活かすとともに、水生生物の移動が可能となるよう河川の連続性の確保に努めるなど、在来動植物の良好な生息・生育環境に配慮します。……。
	付属 P18	(4)魚類 [2 段落目] アユのほか、ウグイ、カジカ中卵型(ウツセミカジカ(中卵型:両側回遊型))、オオヨシノボリなどの回遊魚も見られる。
【Q16】 ・「外来生物(ヌートリアなど)」に関する自由意見あり。	本文 P21	③生息・生育する主な生き物 [4 段落目] 近年、外来種のヌートリア、ミシシippアカミミガメの生息やオオキンケイギク、アレチウリの生育が確認されています。
	付属 P17	2.5 動植物 (1)哺乳類 河川周辺では、タヌキやテンなどが生息しているほか、近年は外来種のヌートリアが広く確認されている。
【Q16】 ・「サギ類等による食害」に関する自由意見あり。	付属 P17	(2)鳥類 ……。また、平野部ではサギ類やカワウが多く見られ、漁業権対象種への食害が懸念されている。
【Q16】 ・「オオサンショウウオ」に関する自由意見あり。	付属 P18	(3)爬虫類・両生類 ……。支川上流部ではヒダサンショウウオや国の特別天然記念物にも指定されているオオサンショウウオが確認されている。

アンケート結果	頁	整備計画への反映(網掛部分)
<p>【Q16】 ・「アンケート結果と今後の方針を分かるように報告してほしい」との自由意見あり。 ⇒『アンケート結果』を掲載。</p>	付属 P84 ~129	1. 住民アンケート 1.1 アンケート概要 1.2 アンケート集計結果 1.3 アンケート結果総括 1.4 整備計画への反映

【斐伊川水系中流支川域内の皆さまへ】

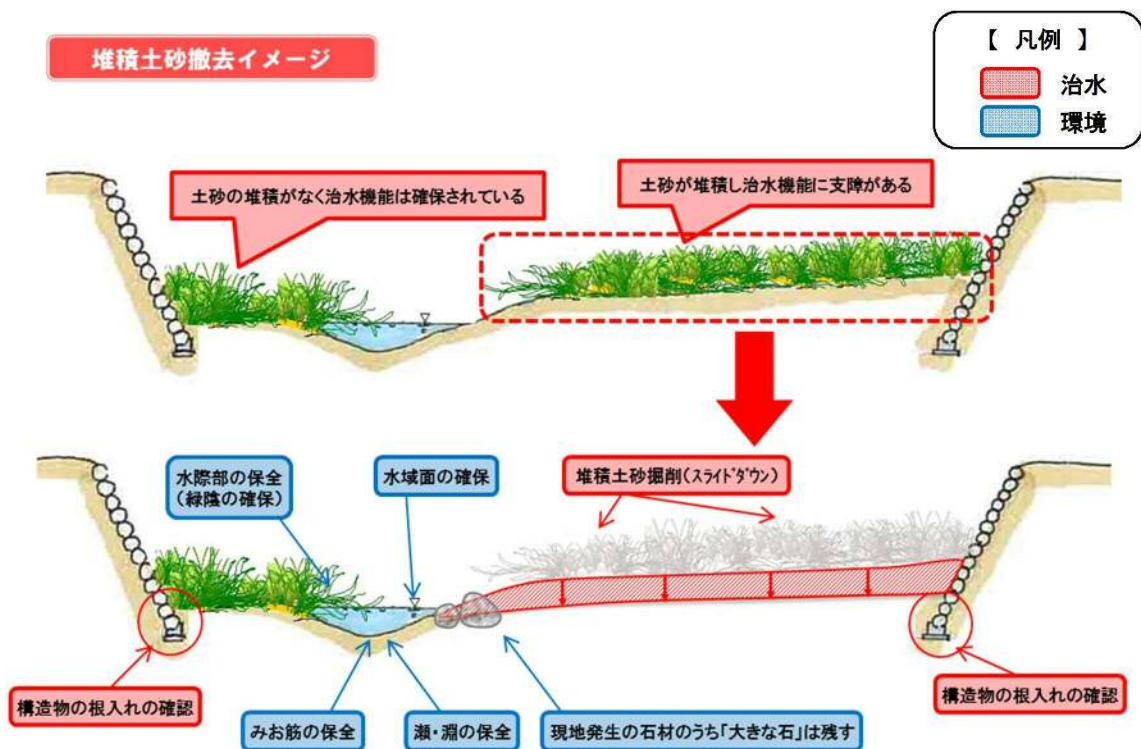
川づくりに関するアンケートをお願いしたところ、12,142世帯から4,944通（39.6%）もの回答をいただき、誠にありがとうございました。

この貴重なご意見を今後の河川行政等に活かしていきます。

河川管理施設については、年1回以上の点検にて、河川の状況を把握し、治水機能が確保されるよう維持修繕を行っています。

アンケートでは、治水上危険を感じる理由として、「草木が茂っている」、「土がたまっている」が特に多くありました。本圏域では斐伊川、赤川、三刀屋川、久野川等の立木伐採や土砂撤去を下記イメージで行っております。

このアンケート結果を踏まえ、引き続き、限られた予算の中で効率的・効果的な河川の維持に努めていきます。



立木伐採イメージ

【 凡例 】

- 治水
- 環境

